ジェンダーに関する意識調査アンケート

曹洞宗宗務庁　SDGｓ推進委員会　Aグループ

ジェンダーに関する意識調査アンケート結果報告

曹洞宗宗務庁　SDG s 推進委員会
A グループ

現在、曹洞宗宗務庁では、曹洞宗教団における SDGs 推進活動の一環として、ジェンダー（性差）に関する課題に取り組んでいます。男女の平等（性差による差別や不平等の解消）が叫ばれて久しいことは誰もが知るところです。しかし、実現への道のりは遠く、今でも大きな社会課題の一つとして聳え立っています。こうした中、特に曹洞宗についての評価は、社会的な実践状況だけでなく、他宗教・他宗派が抱いている問題意識と比べても、決して十分とはいえず、むしろ消極的と評されることも少なくありません。

このような現状に鑑み、このたび SDGs 推進委員会（A グループ）では、曹洞宗内におけるジェンダー意識の向上を企図し、関心度や理解度についてのアンケート調査を行いました。本アンケートは、曹洞宗宗務庁内局に対して、その調査結果をもってジェンダー平等に関する施策提言を行うべく実施されたものです。詳細は以下のとおりです。

・手　法　；　インターネットのみ。
・形　態　；　選択・自由記述
・設問数　；　14
・調査対象；　曹洞宗関係者（曹洞宗宗務庁役職員・曹洞宗総合研究センター役職員・宗議会議員・宗務所役職員・管区教化センター役職員・曹洞宗青年会会員・本山役寮・本山役職員・尼僧団団員・清風会・宗門学校関係者）

実施した結果、調査手法の特徴もあってか、回答の中心層は三〇・四〇代となりました。これは、今後の曹洞宗教団の主な担い手となる年齢層といえます。当該世代における生の見解を直接確認することができたのは、本アンケートの大きな意義といえます。

回答内容を精査すると、ジェンダーに関する理解や関心については、以下のようなポイントが見えてきました。

・各個人における生活環境や認識の違いが、ジェンダーの捉え方に大きな影響を与えている。

・社会通念や問題の実態が的確に把握されていないため、ジェンダーの課題は、単なる身体的な性質（特徴）の問題と理解される傾向が強い。

昨今、差別の解消は思いやりだけでは難しいと言われています。それは、強者の思いやりによって弱者を救済するという構造になりがちであったからです。また、思いやりは目の前のことに意識が向きがちになり、自分が知る範囲の問題に留まってしまうこともしばしばあります。差別の解消を「思いやり」だけでやろうとすることが、また別の差別を生む原因となる場合があることは、意外と見落とされがちです。

本アンケートの結果を分析すると、曹洞宗としての最優先事項は、現在の社会状況についての正確な認知といえます。さらに、他宗教や他宗派など、曹洞宗外の宗教団体の動向を把握する必要があるでしょう。こうした活動を進めることにより、ジェンダー問題に関する現在の基本認識を養い、誤認を正して新たな気づきや学びを得ることが最も有効と考えられます。加えて、これは決して僧侶だけに求められることではありません。檀信徒の方々にも周知し、ともに自覚を深める必要があるといえます。

【アンケートの設問と結果】

Q１・あなたの性別は以下の選択肢のどれに当てはまりますか。次の選択肢からどれか一つ選んでください。

男性 186（85%）、女性 26（11%）、その他 2（1%）、答えたくない 5（2%）

Q２・あなたの現在の立場は以下の選択肢のどれに当てはまりますか。次の選択肢からあてはまるものすべてを選んでください。

僧侶 195（47%）、教師 81（19%）、曹洞宗宗務庁役職員 45（11%）、曹洞宗総合研究センター役職員 9（2%）、宗議会議員 4（1%）、宗務所役職員 4（1%）、管区教化センター役職員 18（4%）、曹洞宗青年会会員 43（11%）、本山役寮・本山役職員 0（0%）、尼僧団団員 3（1%）、清風会 4（1%）、宗門学校関係者 2（0%）、その他 9（2%）。

Q３・あなたの年齢をお答えください。

10 代　0（0%）、20 代　21（10%）、30 代　78（38%）、40 代　75（36%）、50 代　21（10%）、60 代　9（4%）、70 代　4（2%）、80 代　0（0%）、90 代　0（0%）

Q４・現在、曹洞宗における教師の男女比は 97：3 です。極端に女性教師数が少ない原因は何であると思いますか。あなたのお考えに近いものすべてを選んでください。

剃髪への抵抗感　129（16%）、修行の厳しさ　32（４%）、男尊女卑の影響 68（9%）、女性教師ロールモデル※1 の少なさ　101（13%）、寺院経営の経済的不安定さ　65（8%）、寺院後継者に男性が選ばれること　108（14%）、男性僧侶と女性僧侶の教育環境格差　46（6%）、女性が活躍しにくい曹洞宗の体質　96（12%）、男女の本質的な能力の差　13（2%）、男女の適性の差　18（2%）、女性自身の自由選択　84（11%）、その他　23（3%）

※1 ロールモデル＝考え方や行動の規範になる人物

Q５・内閣府男女共同参画局で「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位※2に女性が占める割合が、少なくとも30％程度になるよう期待する」という目標が立てられていることを知っていますか。次の選択肢からどれか一つ選んでください。

※２指導的地位＝(1)議会議員、(2)法人・団体等における課長相当職以上の者、(3)専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者。

知っていた 103（48.4％）、知らなかった 110（51.6％）

Q６・他宗派に女性宗議会議員が存在し、活躍していることを知っていますか。次の選択肢からどれか一つ選んでください。

知っていた 59(27.7％)、知らなかった 154(72.3％)

Q７・現在、曹洞宗における役員（宗議会議員、宗務所長、管区教化センター長、宗務庁部長、係長、課長）の男女比は100：0です。女性不在の原因は何であると思いますか。次の選択肢からあなたのお考えに近いものすべてを選んでください。

男性を優先する意識や習慣　107（17％）、男女の特性上の差 18（3％）、女性教師・女性職員比率の低さ　155（25％）、女性の業務評価の機会が不十分 52（8％）、曹洞宗内において実績を残し得る機会が不平等　59（10％）、役員選出方法に関する制度的問題　59（10％）、女性が役員となるロールモデルが少ない 125（20％）、特に性差は意識せずに選ばれた結果　37（６％）、その他　0（0％）

Q８・宗議会議員の選出の際に「女性枠」※3を設定することについてどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものを一つ選び、その理由を記入してください。

※３「女性枠」とは：例えば、現在曹洞宗宗制上では、男女平等に宗議会議員になることを可能としているが、現状は数十年以上１名もおらず、曹洞宗宗議

会で女性の声を反映させる存在が明らかに欠如している現状であるため、「宗議会議員のうち、最低３名は女性の議員で構成する」などのような形で「女性枠」を設けるという意味。

賛成　64（30％）、どちらかというと賛成　47（22.1％）、
反対　28（13.1％）、どちらかというと反対　21（9.9％）、どちらともいえない　53（24.9％）

理由：

- 分からない
- まずは女性の声が宗議会に届くように、無理やりにでも女性の宗議会議員を出すべきだと思う為。
- 女性教師のロールモデルを示すという意味では賛成だが、数字をそろえただけで根本的な解決にはつながらないと思う。
- あったほうがよい
- 現状、立候補者がいるか疑問
- 議員に男女は関係ないと考える。ただ尼僧の意見を反映すべきという事に賛成、枠を設けることに反対でもない為。（反映されていないという前提）
- 現在「宗制上は男女平等に宗議会議員になることを可能」としていて、結果として女性が０人であるだけなので、わざわざ「女性枠」を設けることは反対というか違和感があります。また、「明らかに欠如している」と言い切る根拠はどこにあるのでしょうか。宗議会議員の大半が女性に理解のない男尊女卑を公言している方々であるという調査結果でもあるのでしょうか。人数比率だけでここまで言い切るのは危険だと私は考えます。数十年いないのは時代にそぐわないから女性議員を輩出しなきゃ！とジェンダー平等に固執する、この設問を考えた人の安易な考えが容易に想像できます。もっと他に先に聞くことや理解を求めなければならないことがあると思います。
- 僧籍の有無が問題になり、寺族さんもいる中、女性枠を設けるだけでは解決にならないと思われる。

- 立候補の必要要件上は平等性が確保されている。但し公平に運用されているかどうかについては定かではない。
- 「議員となり、曹洞宗のこれからを考えていきたい」という強い思いの持った女性がいるなら「女性枠」等関係なく採用する方が平等かと思います。（能力や功績等もきちんと考慮して）
- 組織を持続するためには多様性が必要であるため。ただし、現在行われている女性枠の制度では、女性性という属性が重要視されず、男性性に傾いた女性が活躍する傾向にあることが指摘されているため、組織の意思決定などにおいて女性、外国人、子どもなどの属性が発揮される意思決定が必要だと考える。
- 女性枠ということ自体が差別的で性別の搾取と感じるから。性別に関係なく個人の人格・能力にフォーカスすべきと思う。
- 数ありきの平等を標榜した制度設計が失敗した例は枚挙に暇がない。多様性の確保や少数意見の吸い上げが必要であることは論を待たないが、それは「枠」とは違うと思う。
- まずは女性を入れることが大事だから
- LQBTQ が叫ばれている現在において、男と女に限定するものもいかがなものか。しかしながら、それと女性が入っていないというのもどうなのかとも思う。また、現在の宗議会議員の選出方法が、地域かつ両大本山の会派というものがあるため、女性枠をそこの中にいれるのは難しいのでは。ただ、尼僧団、婦人会から枠をとってあららにということはできるのではないか。
- 実力がある方は女性枠がなくとも選ばれると思うが、女性側の意見を取り入れるのに無理やり女性を入れるのもいいとは思う
- 枠組みとして設定した方が、心情的、政治的な見えない障壁を除去できると考えるから
- 先ずはやってみて結果を
- 当面は枠を設けないと、増えないと思う…
- 女性の声は絶対必要。もっと尊重すべき。
- 大切な女性の力を宗議会議員に与していいのかよくわからない
- まずは必然的に設定し活躍の場を作る
- わざわざ作る必要はない、適役がいたら自然と名前が上がってくると思

う

- 今が歪すぎるから
- 枠を設けない限り女性に対する意識すら生まれなさそうな為。
- 価値観と視点が男性と違うところ
- そもそも「女性枠」という考え方自体が平等ではないから。そんなことをしなくても性別ではなく選出されるようなシステムづくりが大事に思います。
- 宗議会議員が男性のみだと偏った意見ばかりになる
- 特別扱いする事になる為、返って扱いに困る枠になる。其れこそ蔑視に繋がると考えます。
- あえて、女性枠を設けることが男女平等ということとは思えない。
- 女性だけの特別枠を設けること自体が平等の精神に反するから。女性(尼僧)の意見を取り入れたいのであれば、また、より開かれた議会にするため僧堂や学校関係者、青年会等の意見を取り入れられるような枠を設けるなら賛成する。現在の宗議会議員の選出方法は是正すべきだと思う。
- 曹洞宗の古い体制に新鮮な風を入れてくれそうな反面、受け入れ態勢がまだまだ未完成である
- 女性側の意見・発言も今後必要と思うから
- 男女にかかわらず当選者であれば女性の声を反映することは可能なのでは
- 機会の平等は追及するべきだが、結果の平等は不平等を招くことになると考えます。
- 枠があることで強制的にさせられる人がいるかもしれないので。
- 内閣府男女共同参画局で「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位※2 に女性が占める割合が、少なくとも 30%程度になるよう期待する」とあるとおり、ある程度曹洞宗としてもその以降に沿うべきではないかと思う。ただ、現状なり手が居ないだろうなと感じる。
- そもそも、宗議会議員を望む尼僧がいるのでしょうか？また、そのような規定は却って別の論議が惹起します（なぜ同数としないのか。など）したがって、規定上性別を規定するのは法制上好ましくないと思います。
- 設問者は選挙規定を読んでから設問してください

- 希望者がいれば良い
- 宗議会議員の選出は、曹洞宗選挙規程に則り、公平公正に選挙されるものかと思います。その条項に男女の区分はなく立候補者の政策や政治信条を有権者である教師が選挙しています。ここには、男女差別が生まれるような条項はなく、返って男女平等な中において宗議会議員が選ばれていると思います。よって、敢えて女性枠を設ける必要はないと考えます。唯一、女性の意見が反映されにくいと考えるならば、選挙権を有している教師の男女比が単に影響しているだけかと思います。寺族に選挙権や被選挙権を持たせる方が、女性議員が誕生しやすい環境の整備に繋がるものと思われます。
- 女性のロールモデルを増やすことで今後尼僧が増えていくのではないか。
- どちらかといえば賛成としましたが、選挙の様子を見ていると資金面で選挙に参加する事は中々難しいと思います。信徒さんのお寺に入られている尼僧さんが多い印象だからです。
- 議員選出の方法がわからないので大変恐縮なのですが、逆になぜ今まで女性議員がいなかったのでしょうか？立候補者がいなかったから？賛成ではありますが、そうした歴史的な背景や議員選出の事情から考察すべきだと思います。
- 制度化しなければ何も進展しないから
- 世の中が男女平等になればと思い選びました。
- 絶対数が少ない女性僧侶なかで人数を定めることは難しく思う。その反面、女性ならではの寺院運営や曹洞宗檀信徒との寄り添い方があり、そこから学ぶべきことは非常に多いと考える。女性の参画は多いに賛成である。
- 枠がなくても増やせないか？
- 女性僧侶に役が回ることは良いことだが、極端に少ない今の現状でとりあえず枠を作り採用しようとするのには賛成できない。時間がかかるのはしょうがないが人材育成はしっかりするべき。
- 女性を入れることは賛成ですが、枠を設けることで解決にはならないのではないか
- 男女性に関わらず本人の立候補意志の問題である。

- LGBTQ の観点において、女性の定義を明らかにする必要があると考えます。
- 女性目線の議会運営は将来的な宗門の発展に必須だと思うが、３名入ったくらいで何も変えられないと思うから。
- 枠を設定しても女性議員の選出は無いと思うから
- 女性教師自体が少ない中、実力のある人がなるとは限らないから
- 選挙ではなく、僧堂の指導者等が女性枠議員になってはどうか。
- 人数が少ないため、女性枠をつくって女性の負担にならないかは心配。
- 何事にも多様性を得る可能性がある宗門の発展に寄与する
- 枠として考えるのではなく単純に能力ありきで考えるべき
- 女性が活躍しやすくなる工夫がなければ、現状は変わらないと思うため。
- 男女とも宗議会選挙に出る事が可能である以上、性別のみを理由に女性僧侶を議員に抜擢する必要は無い。選挙に出れば良いだけの事。
- 意見を述べる宗議会に女性が参画することで、女性教師等女性の存在が増すので。また寺族会や婦人会などの女性会からも意見が上がりやすくなり、寺院運営が活発に活動しやすくなるから。
- そもそも女性僧侶が自ら立候補するのか？
- 数十年以上１名も女性議員がいないという現実がある以上、女性の声も反映させたいのであれば枠を設けることは現実的であるから。
- 枠を設けると女性の負担になると思うので。
- 無理やり選びやってもらう必要はないがそういう枠があることによってできる機会が得られるから
- 女性男性の割合に関しては、機会の平等があれば良いと思います。結果の平等をあえて設ける必要はないと考えます。
- 機会を作ることは問題ないと思うがいきなりはやり過ぎというか遅い気がします。平等と言ってる時点で平等ではない気がします。
- 特別枠を設ける以前に根本的な体質を改善できるはず
- 男女関係なく適性や能力のある人物が就くべき
- まず、きちんとこの問題に対して、両性で話をした方が良いと思います。
- そういった制度を設けないと改善する見込みがないから
- 前段階として少数から始め、宗門の目標値に近付けるきっかけとなれば

と思います。

- 時代の流れに乗るため
- 現状、女性の宗議会議員が生まれない仕組みではないため。
- 曹洞宗宗議会で女性の声を反映させる存在が明らかに欠如している現状であるため
- 性別による枠の定員を設けることは平等とは言えない。さらに言えばLGBTQ の視点からも逆行していると思う。宗議会議員の選定・選任方法による結果との理解しています。
- そもそもの議員候補を選出する会派の問題の方が大きいので、それを宗制として定める必要があるかについては議論の余地がある。加えて、女性に留まらず、年齢層などの多様性もまた必要。
- どのように選出するのか不明
- 実績や能力に応じて男女問わず宗議会議員の選出を行えば良いと考えています。
- 宗議会議員は、男性の僧侶に偏りすぎている。女性と一般檀信徒も入れるべきと考える。
- 前例をつくる意味では賛成。「女性枠」という枠組みが男女は別という意識を助長するのではないかとも思う
- 実際にそのような規定を作ったとしても、各県からの選出によって必ず女性議員が選出されることはその時にならないとわかないが、そのような規定を作ることによって女性の声が反映されるきっかけになると思う。
- 無理に入れる必要もないが、適正ある方がいるなら積極的に入れるべき
- 年齢、性別関係なく有能な人物が評価されるべきであるが、現状では女性の有能な人材が発掘されにくい状況にある。半ば強制的に女性僧侶に参加いただくのは良いのではないか。
- 各選挙区で、今の状況では声をあげづらいと思います。区にとらわれない場所で、立候補できる場を設ける必要はあるかとかと思います。
- 或る意味強制しないと女性は宗議会に入れないから
- さまざまな意見を反映させるべきだと思う
- 現状を変えるため、女性の声を反映するためにも、まずは女性枠を設けていくことが必要だと思います。

- 女性で議員を積極的に務めたいという方がいれば、その方の声を聞けば良いと思う。【最低 3 名】など、強制力を持たせる必要性はあるのでしょうか？
- 男女を問わず
- 必要な宗風と思えない
- まずは前例作りから
- 女性だからと言う理由がおかしい
- 現在は母数として女性の人数が少なすぎるので枠を設けても本人に意思があるのか疑問がある。
- 社会の流れに対応する必要がある為
- 宗内のジェンダーバランスに合わせて議員枠を設けるべきではないか。
- 枠を作ったところで、女性がやるかは分からない。
- 設問にあるとおり宗議会議員の選出については、宗制上男女平等である。女性が宗議会議員に就任するかどうかの問題である。「女性枠」を設けること自体が宗議会議員選出において、男女の平等性を欠くことになると考える。
- 必要だと思うから
- 10:0 の比率が慣習になっていると思われるため
- 今の宗務庁には改善すべきことはたくさんある。男性目線のみしか無い現状では今後の視野が狭くなるのではと考えてた。
- 現在は、女性教師自体が少ないので、「女性枠」を設けて積極的に登用していくのが良いと思う。宗議会での議論に女性の意見は必要だと思う。
- 性別による枠を設けることを差別と考えている。
- 宗議会議員に立候補したいと考える女性が少ないと思う
- 女性枠という枠組みが適当とは思わない
- 男女それぞれの意見は必要になると思われる
- 見当違いや勘違いであれば恐縮ですが、議員の役職を担うためには住持する寺院の管理や檀務と別に議会に関わる時間が必要なのだと拝察します。女性僧侶の母数が少ない中で、これをこなせる状況にいるのは関東周辺などのごく一部の女性僧侶に限られてしまうのではないでしょうか。女性枠での議席がこのような一部僧侶に占有される可能性があるのであれば危惧しなければならないと思います。

- 賛成。女性が意見しやすい組織文化の醸成も同時進行で必要かと考えます。
- 能で選ぶべきだと考える。ただこのままの制度で女性の議員が増えるとも考えづらいので、議会でオブザーバーとして指名するなどの処置は必要と考える。
- まずはやってみる、やってみて考えてはいけないのでしょうか
- 女性差別は長期にわたって歴史的に社会制度として醸成されたもの。その流れを反転させるには制度設計が必要。女性差別という氾濫をしやすい河の治水工事のようなものだと思う。
- 性差における海外の評価は思っている以上に日本より厳しい。曹洞宗の体質がそのまま末端の僧侶の発言や行動にまで影響しかねないと思う。
- 女性宗侶の方が活躍される場を設けようとする姿勢は賛同出来るが、女性枠という枠決め自体が性差別感を助長しているように感じてしまう。勝手に枠を作って強引に引っ張り入れるのでなく、本当に女性宗侶の方が議員としての立場になり活躍したいかどうかを確認する必要もあるのではと感じる。
- そうしたほうが、女性が尊重されるから
- 議員になりたい女性がどの程度いらっしゃるのか把握しておりませんので
- 能力に関係なく、性別のみで判断するのはどうかと思う。むしろ女性でも参画できるような土台作りが必要である。
- 意見を反映させるという意味ではあった方が良いかと思います
- 男女が平等に活躍できる環境作りのためには必要なことであると感じるから
- 「女性枠」を設ける具体的な要件が不明。例にあるような要件では、どの選挙区から、どのような調整が図られて、最低人数の選出が行われるか不明。
- 人数を増やすことが目的になってはいけない。女性の意見が取り入れられる環境を作ることが大切だと考えます。
- 枠で無理に選びと、質の確保ができない
- 必要に応じて枠は作れば良い。女性僧侶が少ないので三名が適正か謎。
- 「性差」という一面で特定枠的な設定を設けることに異論を感じます。

- 尼僧団などが有りながら、意思決定機関に関与が制度上の不備があるため。
- 強制的に女性枠を設けるのではなく、個人の能力、資質等によって選出されるべきものであるため。
- 女性でも議員になれることを更に周知したり、役員選出方法(年齢の引き下げなど)の変更、男性を優先する意識や習慣を変える方が最優先だと思うから。
- 様々な価値観を反映する為。
- 選択の機会が広がるから
- 枠を、とる事自体、差別につながる可能性がありますが、改革という意味では、一度、女性枠を、とってやってみることも必要ではないかと思います。
- 平等という観点から女性の意見意思を伝えられる場所は必要であるべき
- 全体の比率からみて、議会の中に 3 人は比率としては平等でない。しかし、比率を合わせて 1 人にしたところで意味がないので
- 必ずしも女性枠が必要とは思いません。
- 女性の声を反映するのは大賛成だが、宗門の様子を見るに「枠」そのものが差別の助長にならないか懸念される。
- 男女は関係なく能力で選出するべき
- 女性の意見を吸い上げる点では大変良い。しかし、元々お寺で育った尼僧と、発心して尼僧になった人では感覚が少し違いそう(男性も同じ)。よって、尼僧と寺族、また宗務庁職員、若しくは護持会から議員が出ても良いと感じる。
- 強制的に枠を設けるのではなく、制度などの整備を進めた結果自然に女性が増えるようにすべき。また、自発的立候補者が枠数分そろわなかった場合どうするのか。
- 仕組みを変えていかなければ結果は変わらないから
- 女性枠を設けること自体が差別なのではないか
- なりたくない人がならなければいけなくなる可能性があるため
- 先ずいないことにはじまらない
- そうでもしないと差別はなくならない
- そもそも、男性、女性という二つのジェンダーに限定されている体制

が、LGBT の配慮に欠けていると感じる。

- 能力に性差は必要ない為
- 女性の声が聞けるようになると思うから
- 宗議会議員が選挙によって選出されることを踏まえれば、票の平等性が損なわれると考えるが、女性僧侶が極端に少ない現状であるので、女性枠を設けたりしなければ女性宗議会議員が生まれるのは困難と考えます
- 特別枠からの選出ということで、結局お飾り扱いされかねないから。
- 選挙の結果で選ぶべきであって、わざに設けるべきではない。
- まずはロールモデルを作るべきと考えるから。
- 男社会かつ高齢者が上に立つ旧体制は早急に改善すべきだと考えるので。例として挙げられているが本気で変えようというなら 3 名では少な過ぎる。ジェンダーの問題よりも宗費の使い道など変えるべきことを優先すべき。
- 女性の活躍は良いと思うが固定の枠があれば、実力や努力が無くても議員になれてしまう。
- わざわざ、決まりを作らなくても選べばいいだけ。
- 公共の乗り物の優先席の様な感じがあるといえるかな。本来的には性別関係なく一個人として適任かどうかの判断であるべきだと考えます。とはいえ、現状の状態を鑑みるにまず制度として取り入れてみると言う考えはいいと思います。
- そもそもほとんど比率として存在していないなかで、無理矢理感を感じる。行うのならば、各選挙区で 1 名ずつといった形以外では難しいのではないかと思う。
- 布教活動が時代に即してない為
- 議員になることが認められているのであれば意志と能力があればなれるはず
- 変えるべきは、意識だけでなく、枠組み(組織のシステム)も必要だと思うから
- 枠が決まっていれば必ず女性が入るから
- 女性の宗議会議員もいるべきだと思うが、今の男女比で強制的に何人出しますと決めるのは無理があると思う。
- 特定の枠を設けることで本人の意志や能力の有無に関わらずに選出され

る可能性がある為

- 現在の体制が社会の流れに反しているから
- 本当に女性活躍を望むなら反対もあるかも知れないが最初は女性枠は必要かもしれません
- 制度上機会は平等に担保されていると考えるため。無理に人数をそろえることは却って質の低下を招く懸念があると考える。
- 宗門の性差別意識とその実態を浮き彫りにする機会となる
- 今後において一定ラインの女性枠は必要だと思うが、特別枠みたいな制度を設けるのではなく一般社会と同じように今後女性が活躍しやすい環境や男尊女卑や年功序列といった悪習をどのように減らしていくかを考察するべきだと思う。
- 現状で女性が議員になるのは無理だろうから、声を届けるために、とりあえず枠を設けるのもありかもしれない。
- わざわざ設定することが性差別であるので
- 女性がいないと女性の意見を聞けない
- 女性の僧侶があまりに少ないため、制度を変えることでしか女性議員誕生の期待ができないと感じるから。
- 男女問わず様々な意見を聞く機会を増やす為
- 教師の男女比率の１０年後２０年後の予想などが示されていないので、なんともいえません
- 目線を変えて現状を打開するために、形から入ることも一定程度の意味があると思うため
- 宗議会議員になる為の条件が不明瞭であるから。男性のみが宗義会議員になっている状況は問題ではあるが、3 名は必ず女性の議員を登用すると規定すると、個人の能力をどこまで担保できるかが不明。女性の声というのが具体的にどのようなものであるのかも不明。
- 多様な意見を取り入れる仕組み作りが必要だと思う。
- 3 名入れればいい問題ではなく、女性が議員や役員に選出されないのは根本的かつ根深いものである。
- とくに理由はない
- 男女平等先進国が導入して効果を上げているから
- 議論が必要かな

- 枠を設けなければ、この先も女性議員は出てこない気がするから。議会に女性僧侶の声が届かない現状を変えるには、今はその方法しかないと考えるから。
- 尼僧の立場からの現場の課題等を汲み上げ、議論する機会が無いため
- 女性教師が議員になりたいかどうかが重要だと思うため。
-
- 男尊女卑が潜在的にあり、制度として枠組みが必要
- 圧倒的に女性が少ない状況で女性枠を作れば強制的になりそうだから
- 男女を平等にすべき
- 女性の立場での意見を反映させるため
- 現状が不健全
- 女性の声を反映させたい
- （制度の制定・利用を急いで）先ず先例を。東京大学は女性研究者や学生を増やす試みをしているようです。
- 男女平等。政治家など各界をみても男性の不祥事が多く、女性のほうが真摯に務めると思う。
- 適職者を選ぶべきで、性差は関係ない
- 枠も設ける事も差別。また枠を埋める為の人事も不可解
- 出馬しにくい環境を改善できるかも。
- 逆差別となる
- 現時点で私自身は不平等を感じていない。数を限定せず、能力・熱意のある方が議員になられれば良い。
- 女性教師数が圧倒的少数であるのにその枠を設けることが疑問を
- 多様な意見を議論することにおいて、「女性枠の設置」は、前向きに検討すべき事項だと思います。また、同時に女性教師内に「宗議会議員になりたい」という希望者があらわれやすい環境作りも必須となるように思います。絶対数に偏りがある以上、希望する気持ちを抱くこと事態に高いハードルを感じます。希望者がおらず、制度上女性というだけで、本意ではない形で議員職を勤めなければならない環境に置かれることも辛いことだと感じます。そうしたことを鑑みまして、本設問では、希望者があらわれやすい環境作りを前提として「賛成」といたしました。
- 当初の意図と離れて、いわゆる「数あわせ」のような方向に進んでしま

うと、尼僧様の活躍の場を保証する他の仕組みの整備がかえって遅れてしまうのではないかと考えます。

- 基本的には賛成だが、それがかえって女性への負担にならないか少し不安を感じる。
- 男性の偏った意見だけが反映されるから
- 宗門全体の意識改革につながっていくと考えられる
- 現代において女性枠を設定するのは当然だと思います
- 女性の声を反映させることが大切であるから
- 意見を取り入れる場所はあったほうが良い
- 近年では国会でも女性議員が増えているので、曹洞宗もいろんな目線や立場から意見を取り入れた方が良いと思うので
- 規定枠という形を取らなければ絶対に女性宗議会議員は誕生しないと確信しています。そもそも議員自体、名誉的な役職となっている地域がたくさんありそもそも能力がある方が必ずしも就いているとは到底思えない。
- 「女性枠」を設置することで意識改革が大いに進むと思う。しかしながら、議員に関しては性差というよりも所属寺院の規模が大きな影響を与えている気がする。
- 議員になりたいという方がいるのであれば枠があっても良いと思います。議員をやる気がないのに枠の為に立候補させるのは反対です。
- 特に女性枠を設ける事は一定の意見をまとめて行かなければならないと思います、
- 教団特有の体質に変革を奨める
- 僧侶教師は自らの発心が大事です。現在は今までの慣習から女性の教師が少なかったわけですから、今後得度する者が増える事を期待します。
- 女性がいてもいいと思うが枠を決めるというのには少し抵抗がある
- 「女性枠」を設置することにより必然的に女性議員は増えるが、そもそも女性の絶対数が少なすぎるため就任を希望する女性ばかりとは限らないし、女性議員が多少増えてもどこまで状況が改善されるかわかりかねるため。

Q９・過去、曹洞宗宗務庁の課長、あるいは係長に女性が就任したことは 一 度もありませんが、今後「女性枠」を設定することについてどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものを一つ選び、その理由を記入してください。

賛成　70（32.9％）、どちらかというと賛成　35（16.4％）、反対　26（12.2％）、どちらかというと反対　21（9.9％）、どちらともいえない　61（28.6％）

理由:

- 誰が就任しても変わらないから。
- 何人と決めて女性枠を設定するというより、そもそも男女や在籍期間に関わらず、能力ある人材が役職に就くべきだと思う為。
- 女性教師のロールモデルを示すという意味では賛成だが、数字をそろえただけで根本的な解決にはつながらないと思う。
- あったほうがよい（部署により向き不向きがあるのも事実だと思う）
- 業務形態に違いがある
- 僧籍を持つ女性職員がほぼいない。枠の問題ではないと考える。
- 私は事務員さんのほうが有能な人材が多いと確信しております。先ほども申しましたがわざわざ女性枠を設けることは最近地域によっては形骸化されつつある女性専用車両をイメージしてしまいます。この設問どおりであれば明日からでも係長職に事務員さんたちもなれるようですから、係長、課長への就任条件に男女は関係ありません、と人事部が周知すればそれで終わりではないでしょうか。課長職、係長職に就いている現在の方々を見ていて一つ思うのですが、部長を含め、要職に就かれる方にはある程度のパソコンスキルを必要とする、又は日々習熟を義務づけるようにすれば自席で踏ん反りかえっている暇もなく、職場環境も改善され、そこで改めて事務員さんの有能さに気付けるのではないでしょうか。
- 前述の通り、僧籍の有無が問題になり、一般の女性が役職に就けるのであれば、一般男性も役職に就けるようになるかどうかが問題になると思う。

- 必要要件という観点からは現在の区分上の平等性は確保されている。
- 能力・功績があるなら男女関係ないと思います。
- 女性枠と同時に、男性であっても事務職だけに従事する制度などが必要ではないだろうか。僧侶以外の意識を持つ職員の増加を期待する。
- 僧籍・修行歴がある女性職員であれば賛成。
- 「枠」を設ける以前に、考慮すべき労働環境を巡る問題が多すぎる。
- まずは女性を入れることが大事だから
- Q8 の回答と同じく、LQBTQ が叫ばれている現在において、男と女に限定するものもいかがなものか。しかしながら、それと女性が入っていないというのもどうなのかとも思う。能力がある、かつその本人の意思も尊重しなくてはならないと思う。あくまで仮であるが、女性職員が入庁歴が浅い、極端な話全員 20 代の際も、その役職員にならなくてはいけない制度となってしまう。
- 実力がある方は女性枠がなくとも選ばれると思うが、女性側の意見を取り入れるのに無理やり女性を入れるのもいいとは思う
- 枠組みとして設定した方が、心情的、政治的な見えない障壁を除去できると考えるから
- ある事が望ましい
- 男子の課長や係長より能力の高い女子がいる。
- 女性枠をもっと増やすべき。女性枠がなくても普通に女性がいる状況を作らないといけない。
- 大切な女性の力を課長や係長に与していいのかよくわからない
- 男女平等という面からも当たり前だと思うから
- わざわざ作る必要はない、適役がいたら自然と名前が上がってくると思う
- 現在の制度にはなんらかの変更が必要だから
- ステレオタイプな考え方ではないが、女性ならではの視点や細やかさは、今の曹洞宗に新たな風を吹かせてくれると期待できるし、寧ろ女性の役員が存在しないのは今の時代非常におかしな事と感じる。
- 価値観と視点が男性と違うところ。但し、それにはいくつか事前に職務内容などの見直しが必要だと思います。
- 「女性枠」ではなく、男女関係なく課長に選出されればよいと思いま

す。

- 女性が役職員に就けることは賛成だが「枠」を設定しなくても良い気はする
- 女性枠を設けなければ職につけない体質が問題であり、根本の解決にならず。特別枠を設けたと言う譲歩的な考えを生んでしまう。特別扱いという立場の危うさがある。
- 宗務庁の課長、係長、書記が僧侶資格があるものなので、女性僧侶が少ない現状、課長、係長がいなかったのかと思う。単純に管理職に女性枠を設けることが男女平等ということとは思えない。
- 女性だけの特別枠を設けること自体が平等の精神に反するから。
- 曹洞宗の古い体制に新鮮な風を入れてくれそうな反面、受け入れ態勢がまだまだ未完成である
- 女性の就任は良いと思うが、女性枠と区別はどうかと思う
- 職務形態と入庁する男女比率を考えた場合、素直に特別枠を設定すべきとは考えられない
- 結果の平等は不平等です。
- 適性が有る人なら好いと思うが強制にならないといいと思う
- まずなりたい人が居るか確認してからで良いのでは
- 女性であっても、課長、係長であってほしいとは思います。若干不安なのは、宗教団体なので、最低限曹洞宗の信者でないといけないのでは？って思います。
- 信仰心をもって宗務ができる人材なら賛成だがいるのか？
- 希望者がいれば良い
- 責任ある役職員の任命は、男女の性差で決まるものではなく、上に立つ者としての適正や能力で判断すべきものと思われます。
- 女性職員で能力が優れている人もいらっしゃるのでいいと思うが、本人の意思確認も大切だと思う。
- その配役に就かれる尼僧様はとても大変なお役とご苦労をされるのではと思います。しかし宗務庁に尼僧様達が出入りする機会が増えるきっかけにもなるのではと思います。（今の状況がわからず書いています。すみません。）
- 女性課長のみならず、能力値によって部長、課長、係長を選出すべきだ

と思います。いわゆるのお山体質、法齢や安居歴によってヒエラルキーができる団体は僧堂に必要なルールであって、宗務庁のような企業体質には必要ないと考えます。

- 制度化しなければ何も進展しないから
- 女性側の意見も出て、色々な案がでて、宗門発展に繋がると思いました。
- 地方の寺院護持には多くの女性檀信徒の協力が見られ今後も不可欠なものであると考えます。持続可能な曹洞宗である為に女性目線の布教方法など新たな取り組みが必要かと思います。
- 女性がいない事が異常です。
- 女性僧侶に役が回ることは良いことだが、極端に少ない今の現状でとりあえず枠を作り採用しようとするのには賛成できない。時間がかかるのはしょうがないが人材育成はしっかりするべき。
- 枠より能力の問題ではないかと
- 就職選択の自由である。女性僧が書記として働いて、課長として認められるか否かの問題。
- LGBTQ の観点において、女性の定義を明らかにする必要があると考えます。
- 女性でなければ気づけない行政運営が必ずあると思うから
- もっと先の課題であると思います
- 女性教師自体が少ない中、実力のある人がなるとは限らないから
- 宗務庁がどのような所かよく知らないので何とも言えない。
- 僧侶や一定の研修（仏教思想や曹洞宗について）を受けた職員であればよいと思う。
- 本来は女性枠を設定せずに女性が就任することが平等の観点から望ましいと思う
- 枠として考えるのではなく単純に能力ありきで考えるべき
- 女性が活躍しやすくなる工夫がなければ、現状は変わらないと思うため。
- 選挙に出て声を上げることが大切だと思います。与えられた枠を埋めるための女性議員という構図を生みかねないから。
- 社会的に女性管理職は一般的であるから。

- 役職というのは性差ではなく、適性だと思う。数だけ合わせても根本解決にはならない。
- 部長、課長、係長すべて一度全員女性にしてみたら良いと思います
- 枠を設ける事自体が差別であると思うので。
- 議員に女性枠はわかるがどこかの課は女性と決めるのはおかしいと思う
- 枠を設けるのではなく、相応しい人材がそのポストに就くことが自然だと考えます。
- 反対する理由がない
- 特別枠を設ける以前にだんせの根本的な意識改善に努めるべきである
- 男女関係なく適性や能力のある人物が就くべき
- 性別に関係なく宗務庁職員として採用された教師資格を有する本人がそれを望むのであれば、良いと思います。
- 宗門全体の方針が良い方向に進むと考えられるから
- 前段階として少数から始め、宗門の目標値に近付けるきっかけとなればと思います。
- 時代の流れに乗るため
- 現状、女性の係長・課長が生まれない仕組みではないため。
- 曹洞宗宗務庁の課長、あるいは係長に女性が就任したことは 1 度も無いから
- 性別による枠の定員を設けることは平等とは言えない。さらに言えば LGBTQ の視点からも逆行していると思う。
- 女性枠を制度として設けると、任命された人がそれを理由に選ばれたと判断され、不当な扱いを受ける可能性がある。制度ではなく、内規として定めるか、選出者側の意識改革を通じてそれを行うべき。
- 寺院の現場を理解している能力のある方になってもらいたい
- 実績や能力に応じて男女問わず宗議会議員の選出を行えば良いと考えています。
- 男女問わず能力がある方が就くことが大切
- 前例をつくる意味では賛成。「女性枠」という枠組みが男女は別という意識を助長するのではないかとも思う
- 男性のみが、上司になれる制度は変える必要があると思うから。

- 無理に入れる必要もないが、適正ある方がいるなら積極的に入れるべき
- まずは事務員という枠を撤廃する事が優先。採用時点で僧籍の有無や性別にかかわらず書記登録し、僧籍や教師資格は技能として認定していくシステムがいいと思う。その上で女性書記が係長、課長に昇進していくことが自然かと思う。
- 能力に応じて選ぶ事は大切だと思います。
- 或る意味強制していかないと男性側の意識が変わらないから
- 能力のある方がどんどん活躍すべきだと思う
- 宗侶や檀信徒は男性だけでなく、女性や他の性自認の方もいます。その方たちの声を反映するためにも必要。
- 女性で議員を積極的に務めたいという方がいれば、その方の声を聞けば良いと思う。【最低 3 名】など、強制力を持たせる必要性はあるのでしょうか？
- 男女を問わず
- 必要な宗風と思えない
- 適正のある人であるかの方が重要
- 女性だからと言う枠に違和感あり
- 枠を設けるのではなく環境整備のほうが同時になければいけないと思う。枠だけ先行するのは良くないと思います。
- 社会の流れに対応する必要がある為
- 反対する理由がない。しかし、枠があるから選ばれているという構図はどうなのか。理想論ではあるが、男女問わず能力がある者が就くべき。
- 女性枠を付けるということ自体がどうか!?
- 課長或いは係長となれる有資格者が女性であるかどうかの問題である。就任する権利は男女平等であると考える。今後課長及び係長等の就任条件において、女性職員の大多数である事務員から選出できるようなことになるならば、女性の管理職が増えるものと考える。
- 必要だと思うから
- 10:0 の比率が慣習になっていると思われるため
- 役員席に置いてはどのように異動が決まるかわからないが、男女枠を

作成してそれに準ずる異動も必要だと考える

- 現在、女性事務員さんで優秀な方が多くいらっしゃると思う。女性が管理職に就くことで、対内外との連携で良い影響が生まれると思う。
- 性別ではなく能力で選ばれるべき
- 枠を設定するのではなく、希望者に門戸を開くことが重要だと思う
- 女性枠という枠組みが差別的に感じる
- 自分が宗務庁職員になりたいと思ったことは無い為、女性を無理に職員にする必要が無い
- 課長・係長の就任候補に女性僧侶をあげてはならないという慣習があったのなら廃止するべきだと思います。有り得ないとは思いますが、女性であれば誰でも良いから形式的に採用するといった形にならないのであれば積極的に検討するべきではないでしょうか。
- 賛成。女性が意見しやすい組織文化の醸成も同時進行で必要かと考えます。
- 能力で考慮すべきだが、過去一人もいないのはあきらかに異常。別の手段がなければ導入もやむなし
- 適任な女性がいるのに男性が優先される必要はないと思うから
- ロールモデルというか、女性で宗門内で活躍している先達の後輩への影響はとても大きい。そして 0 を 1 に変えるのが一番難しいので、最初の乾坤一擲として課長・係長に女性枠を作るべき。
- 性差における海外の評価は思っている以上に日本より厳しい。曹洞宗の体質がそのまま末端の僧侶の発言や行動にまで影響しかねないと思う。
- 女性宗侶の方が活躍される場を設けようとする姿勢は賛同出来るが、女性枠という枠決め自体が性差別感を助長しているように感じてしまう。勝手に枠を作って強引に引っ張り入れるのでなく、本当に女性宗侶の方が議員としての立場になり活躍したいかどうかを確認する必要もあるのではと感じる。
- 女性が選ばれれば、流れが変わるから
- 議員になりたい女性がどの程度いらっしゃるのか把握しておりませんので
- 安居歴等の一定の条件が満たされていないため。

- 業務に関してはそれをできるかどうかが必要だと思います。
- 男女が平等に活躍できる環境作りのためには必要なことだと感じるから
- 公平、公正、システムの変換、の図が示す通り、踏み台に当たる「枠を設ける」という方法ではなく、システムの変換になるような改善策が望ましい。
- 枠を作れば良いという問題ではない。本庁はもっと能力のある人材を採用し、切磋琢磨するなかでより良い組織が出来ると考えます。
- 枠で無理に選びと、質の確保ができない
- そもそも職員知らない。
- 「性差」という一面で特定枠的な設定を設けることに異論を感じます。
- そもそも、性差を考えるべき自由が無い為。
- 強制的に女性枠を設けるのではなく、個人の能力、資質等によって選出されるべきものであるため。
- 女性でも議員男性を優先する意識や習慣を変える方が最優先だと思うから。
- 様々な価値観を反映する為。
- 役職に性別は関係ないから
- 枠を、とる事自体、差別につながる可能性がありますが、改革という意味では、一度、女性枠を、とってやってみることも必要ではないかと思います。
- 平等という観点から女性の意見意思を伝えられる場所は必要であるべき
- 無理にでも作らないとこれからもずっと男だけだから。
- 前問と同じです。
- 女性の声を反映するのは大賛成だが、宗門の様子を見るに「枠」そのものが差別の助長にならないか懸念される。
- 男女は関係なく能力で選出するべき
- 女性枠ということに拘らず、その人の適材適所能力で選んでもらえればいい。
- 強制的に枠を設けるのではなく、制度などの整備を進めた結果自然に

女性が増えるようにすべき。また、一時期女性書記を任用した時期があったが、全員が退職という結果もある。

- 役職は性別でなくスキルや能力で選ぶべき
- 女性枠を設けること自体が差別なのではないか
- なりたくない人がならなければいけなくなる可能性
- その前に女性職員を増やせないのではないか。
- 男女にこだわらないが、応援したいから。
- 女性枠を設けることで、女性枠で選ばれたなどという人はまだまだいる為、せっかく頑張ろうとしても、モチベーションの妨げになる
- 女性の意見を宗門寺院により多く反映するためにも必要
- 女性の活躍できる場面が増えると思うから
- 女性が活躍しにくいという体質を改善するには、大変に有効と考えます。また、次世代へのロールモデルとなるのと考えます
- 特別枠からの選出ということで、結局お飾り扱いされかねないから。
- 尼僧さんの人数が圧倒的に少ないのだから仕方がない。
- まずはロールモデルを作るべきと考えるから。
- 設定しないと女性が入ってくる体制ではないため。
- 素直に男女平等であるならば課長がいないとおかしいと思う。
- わざわざ、決まりを作らなくても選べばいいだけ。
- Q8 に近い理由です。
- 僧籍をもったものしか課長、係長になれないのなら難しいのではないだろうか？僧籍がなくてもいいなら賛成
- 布教活動が時代に即していない為
- 議員になることが認められているのであれば意志と能力があればなれるはず
- 変えるべきは、意識だけでなく、枠組み(組織のシステム)も必要だと思うから
- 宗務庁自体がほぼ一般の組織なのだから、性差だけを重んじるのはどうかと思う。
- 男女関係なく、信任と実績によって選出されるべき。
- 本人の意志を尊重すべきだと思います。本庁の選出の仕方は理解しておりませんが、“女性だから”という概念を持っている方が多数いる限り、

体制は変わらないと思われます。

- さまざまな考えを導入すべし
- 梅花や布教師は男女二人課長がいても良いではないのでしょうか
- 制度上機会は平等に担保されていると考えるため。無理に人数をそろえることは却って質の低下を招く懸念があると考える。
- 宗門の性差別意識とその実態を浮き彫りにする機会となる
- Q8 の回答とほぼ同じかつ、特別枠どうこうではなく宗派全体を上手くまとめ導いてくれる人物であるなら性別は関係ないのでは？
- わざわざもうける必要はない。
- わざわざ設定することが性差別であるので
- 女性がいないと女性の意見を聞けない
- 実務能力が問われる役職は性別に関わらず選ばれるべき。
- 男女問わず優秀な人材を据えるべき
- 男性目線では気がつかない視点からの施策が生まれる可能性がある
- 目線を変えて現状を打開するために、形から入ることも一定程度の意味があると思うため
- 前述した通り、女性を登用することを「枠」として設定してしまうことが必ずしも良いとは限らないと思う。性別如何よりも能力で判断することが重要であり、年長の者を重用する傾向のある宗門の特性が問題ではないかと思ってしまう。
- 有能な人を重要な立場につくことは当然だと思う。ただ、現状ではそもそも女性の書記が少ない。その状況でポストだけを女性にすることにどれほどの意味があるのかは疑問。なぜか有道会と總和会の人数を合わせているが、そもそも登用の段階で女性の書記を一定数入れるべきではないか。
- 上記と同様。
- とくに理由はない
- 制度化しなくても改善されることが望ましいが、ある程度のテコ入れは必要考える。
- 体制
- 社会が既にそのような方向に進んでいる中で、宗門が取り残されているように感じるから。性別にかかわらず活躍できる宗門を実現するた

めにはまず上が変るべきと考えるから。是非実現を。

- 男女雇用機会均等機会と待遇を推進するべき、時にあると思うから。
- 上記の理由と同じ。
-
- 男尊女卑が潜在的にあり、制度として枠組みが必要
- 圧倒的に女性が少ない状況で女性枠を作れば強制的になりそうだから
- ふさわしい人がなるべき
- 女性管理職を育てていきたいから
- 制度を改革しふさわしい方が役職へ付かれることを望みます
- 女性の声を反映させたい
- 枠の設定がないと、保守（後進）的な方向へ偏ると思うので
- 男女平等。
- 適職者を選ぶべきで、性差は関係ない
- 本庁の人事は本庁の人事綱領に従って行えば良い。
- 現場の判断になるかと思います。内情が分からないので。
- 逆差別となる
- 前の質問と同じで、能力・熱意がある方にやっていただきたい。
- Q8 と同様に、男性教師に対抗できる人数の女性教師を増やさなければ意味が無いように思う
- Q8 と同様でございますが、希望者があらわれやすい環境作りを前提に前向きに検討すべきと思います。
- ことさら「女性枠」という仕組みを設定するのではなく、登用の仕方全般に尼僧様が参加できるような工夫が必要と思います。「枠があるから」ということがかえって足かせにならないかと危惧します。
- 良い事だし必要だと感じる。宗門の学校には女性の役職員もおり、大いに進めるべきだと感じる。
- 様々な社会で女性がリーダーとし活躍されているから
- 男女比が半分半分になるまでは、「女性枠」の設定は必要な手法だと考えられる
- 女性枠を設けるのは当然であるが、男女問わず能力のある方が選任されるのが望まれます。
- 男性だけが就任する理由が全くないから。

- 意見を取り入れる場所はあったほうが良い
- 女性枠を設定した方が、柔軟に対応してくれるメリットがあるが、経験がないので難しいとも感じる
- 本庁職員の役職となると能力は必至ですので枠数を決めてしまうと能力がない方を役職にしなければならない時も出てきてしまうので、難しいと感じます
- 反対する理由がない。議員の女性枠よりは現実的。
- まず初めにどのようにして課長及び係長を選出されているのか存じ上げません。各部署の部長の指名であるのなら男女各一名指名されるのがよろしいかと。また立候補制であるのなら男女分けての選挙をされてみてはいかがでしょうか。しかしながら、それが良いか悪いかはわかりません。
- 女性と立場で考え方を表現出来る
- 女性枠という言葉自体に違和感
- 上記の回答に加えて役職は自らの実績でなるべきものと考えます。ただし書記事務員といった職制については再考すべきと思います。
- 先ほどと一緒
- 「女性枠」を設置することにより必然的に女性議員は増えるが、そもそも女性の絶対数が少なすぎるため就任を希望する女性ばかりとは限らないし、女性議員が多少増えてもどこまで状況が改善されるかわかりかねるため。

Q１０・「男女を論ずることなかれ」と道元禅師の教えにありますが、「両大本山のどちらかで安居をしたかった」という女性教師の声が寄せられております。尼僧が両大本山に安居できない現状についてどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものを一つ選び、その理由を記入してください。

賛成　31（14.6％）、どちらかというと賛成　27（12.7％）、反対　50（23.5％）、どちらかというと反対　30（14.1％）どちらともいえない　75（35.2％）

理由：

- 分からない。
- そもそもなぜ、尼僧が両大本山に安居出来ないのかが分からない。安居したいと思っている尼僧が居るなら、性別で安居出来る先を決めるべきではない。
- 安居出来ない理由について具体的な話を聞いたことが無いので何とも言えない。本山の提示している理由次第。
- 制度、体系が構築されていないためすぐには難しいと思う
- 環境整備が整っていない
- 教学的な問題等はわからないが、個人的には安居できたらよいと思う。
- 物理的にできない or 宗制上や本山の制度上できない or どちらもなのかこの設問に明記するべきではないでしょうか。制度に制限がなければ瑞世ができるのだから環境が整備されて、周囲がそれを当たり前と感じれる意識さえあれば可能と私は考えます。
- 自衛隊のセクハラ問題もあったと思うが、禁欲生活をしている上で女性が安心して修行できる環境が整わない限り反対です。
- どこに声が寄せられているのか不明です。
- 男女では体の作りが違うので仕方ない気がします。
- 大本山内に尼僧堂が設立される必要があると考える。
- よく分からない。尼僧の数がある程度いれば可能なのではとも思う。
- 「男女七歳にして席を同じうせず」男女の修行僧が一所にいて問題が起きない訳がない。
- ごめんなさい、質問が何に賛否を求めているのかわかりません
- 山内設備の問題もあるかと思うので、一概になんとも言えないと思われる。また、その部分には最終的には両大本山が選択する権利があるかと思われる。また、言い換えるのであれば青山老師のもと、尼僧堂で男性は安居することはできないのではないか。また、実際に男女での安居では多かれ少なかれ男女間という意味でのトラブルは発生すると思われる。もちろんそれを無いように努めるべきであるが、実際問題小職も赴任先のアメリカの禅センターでは過去あったのも事実である。そして、その問題は、指導者と安居者なのか、安居者同士なのかわからないが、

その場のパワーバランスから生じてしまうハラスメントなのか、それとも個人間の恋愛の問題なのかわからないが、多かれ少なかれ発生すると思われる。

- 今の体制であると難しいと思う
- 共学による新たな課題が生まれると憶測するが、根本的な男女平等は修行の段階で行われて初めて可能なものと思うから
- 受け入れ側の根本的変革が必要
- 必要だと思うが、受け入れ側の意識がいかがか、セクハラなどの懸念がある。
- 本人の意志を尊重すべき。
- 安居をしたかったという女性の考えをよく聞いた経験がないのでよく聞いてみたい
- 難しいことはわかるが、何か良い方法があるはず。
- 特別僧堂安居の枠を作る(一年のうち数ヶ月)など
- 本山の安居者も増えるため
- 男女が共に共同生活を送ることは容易なことではないが、推進はしたいと感じる。
- 本山にそれを誰が求め、受け入れ態勢をどうするかの話し合いができてないから。
- 教育機関と考えれば、男子校・女子高・共学のようなものと思えば女性側も拘らなくてもよいのでは？どうしても両大本山永平寺でと拘るのはまた欲というかエゴに感じます。
- 本山を開いた道元禅師の教えにそれこそ反している気がする。別に男女共同安居しろというわけでもない
- 今の現状が最良とは言えないが、男女の交わりに良い未来が見出せない。
- 瑩山禅師がつくられた永光寺でも山内に尼寺がありました。両大本山で安居したい声があるなら、安居できる体制を整えてほしいと思います。ジェンダー平等を意識すればするほど、現状の曹洞宗が男性社会なのだなと思います。SDGs によりすぎていませんか。
- 寮舎を設けるなど、環境を整え、安居できるようにすべき。
- 特安など期間限定などで対応してはどうか。現状、女性が一緒に修行す

ることは本山では難しいと思う。

- 両本山での短期の安居は良いと思うが、尼僧堂の意味がなくなるのではないか？
- 尼僧の尼僧堂以外での安居について、議論を広げても良いと思う
- 機会の平等は与えられるべきです。
- 女性が怖い思いをしないか色々心配になる。
- ただ、男女一緒にすることはできない寝床や東司などの整備の費用の準備と理解が必要となるのではないか。
- 我々の考えではなく、僧堂の対応次第だと思います。
- 道元の教えの断片を切り取るべからず。そもそも本山経験者ならこのような設問はしない。大変なことになるのが想像できないのか？
- 男女一緒の修行は難しい
- 部活動などの学生寮などを考えれば、性の異なる人間が集団で寮生活をすることが難しいことはおのずとわかるかと思います。解決策の一つとして考えられることは、寝食する建物は男女が交わることのないように完全に分けること。日中の行事や公務において、複数のものが参加し男女が 2 人だけになってしまうことがないような行持のみ男女一緒に行うならば、同一僧堂での安居（修行生活）は可能になるかもしれませんね。
- 共同生活することによって支障が出てくることもありそうだから。
- 同じ屋根の下で男女が修行するのは難しいと思います。若い男僧さんや尼僧さんが色々なものを禁じられている状況で修行しているので性的な問題がどうしても出てきてしまうという話を聞いたからです。3 ヶ月単位や数日の終了期間が見えている安居なら可能な気もします。本山の僧堂で坐禅もさせてもらいたい、本山の法堂でおつとめをさせてもらう事で尼僧さん達が進退の勉強もできると思います。
- 「男女を論ずることなかれ」とは言っていますが、「導師」「教師」に貴賤なしなのであって、区別なしと言っているのではないかと思います。釈尊は、煩悩が起きるので明確に男女の修行の場や、説法の場においては区別していました。もちろん尼僧さんが両大本山に安居して欲しいという思いはあります。しかし、発心、菩提心も浅い若者が異性と共同生活をする難しさや様々な問題は後々起こりうるのかなと思います。なの

で、「両大本山に安居を行う」という名目であれば、大本山を男女で分ける(身体的性ではなく性自認)というのが理想なのではないかと思います。

- 多宗派では男女共に本山での修行が実施されているから
- 昨今の僧侶の人口減少には良い
- 僧侶の減少、寺院の後継者不足を考えると女性安居を整備すべきと思う。大本山安居は僧侶としての自覚やプライドを養うことができる。それが布教活動へ生きると思う。
- 男女一緒の生活は難しいのでは？
- 現代のハラスメントの面を考えると難しさを感じるが伽藍を増やしたりすることで対応できる部分はあると思うので、少しずつでも女性の本山安居が実現できると良いと思う。
- 男女で生活のスペースを分けなければいけないが、男女関係なく安居するのは賛成です
- 両本山には男性僧、女性僧双方が安吾出来るフアセリテイがある。同じ僧堂で坐禅はできる。同じ法堂でお経は読める。男女の問題を起こした場合の規程を定めて実施する事は可能。
- トイレや風呂、就寝場所といった設備面の整備を前提とした議論が必要かと存じます。自衛隊や警察、消防の団体が参考になるでしょうか?
- 古参・お師家様の意識改革が伴うと思うので慎重に考えるべき
- 修行にならないと思います。最近の自衛隊のような性的問題になり得るから
- 性的な問題が起きない環境作りは必要
- 修行僧全員が発心しているわけではない。必ず問題が起こる。
- 女性も両大本山で安居できるとよいと思う。女性役寮や職員は存在する。男女問わず安居出来ている専門僧堂はある。一般的な学生寮であっても最低限のルールの基、男女が生活している。だだし万一、性的な問題が起きた場合どうするか…厳格な規則が必要とは思う。
- 改善すべき
- 賛成ではあるが男性・女性が同じ修行道場に住むという事へのケアは大切だと考える
- 時間がかかってもそうしたを受け止める工夫が必要だと思う。
- 男女間での問題が起こるから。

- 修行であるから相応の覚悟は必要と思うが、男性僧と混ざって一緒に安居させなくとも、特殊安居のように短期間の安居や研修を本山で受けさせることができれば良いと思う。
- 本山の教育体制が必ずしも素晴らしいとは言えない。どこで修行するかより、自己をどう修するかでは。
- 男女が禁欲的空間にいる事のリスクを考えるとわける必要もあると思います。本当は分けない方がいいとも思います。
- 体力的に厳しいので。
- 本人の意思を尊重したほうがいいと思うからただし環境の整備が必要
- 修行という性質上合理的に判断された現状かと思います。男子校、女子校、夫婦別姓などさまざまなハードルが無くなって最後に議論されるべき課題かと考えます。
- 閉鎖的な環境で一緒に修行は難しいような気がする
- 外的圧力によって慌てて対策しようとすることがすでに手遅れである
- 女性を受け入れるだけの設備等が用意できるならば
- 環境の問題があるので、環境が整備されるのであればよいと思います。
- 現状では両大本山は男性僧侶のためにあると言わざるおえない
- 理由が定かではない為。
- 女性が安居する環境がない。暫到期間の指導など
- 道元禅師・瑩山禅師の時代では、近くに尼僧寺があったという話を聞いたことがあり、現状それらが無いのは本山側の問題であると思うため。
- 本山における女性の安居制度が未整備のため。また「男女を論ずることなかれ」という教えと、「比丘と比丘尼が同居すること」は問題の質が若干違うと思います。
- 僧堂に関しては元々の云われがある中で、どうすべきかは宗務庁や両本山が主体的に決めていくべき事柄であり、当然本件に限ったことではない
- 「これを解決すれば理論上は安居は可能である」という状況を用意することはさほど難しくはないが、男性側に起因し、かついかなる指導者の努力によっても制御が困難なリスクが存在する以上、受け入れに慎重になるのは理解できるため、その点に関する議論が必要。
- 選択権は平等がいい

- 性別による修行道場の区別は必要と考えています。性的な様々な問題が容易に想像できるからです。なるべく接触がない状態でそれぞれ安居する環境が整えば可能かと思います。
- 志ある人は誰でも安居できる環境を整えるべき
- 身体的問題上安居空間は同じでも男性安居者から隔離された生活空間は必要だと思う
- 賛成ではあるが、男女がともに生活をするのでしっかりとした制度や配慮が必要になるとは思う。
- 本山で修行したいと思うのは、もっともな事だと思います
- 性別を理由に制限を受ける状況は望ましくない。制度や環境を整えて実現していくべき。本山尼僧堂という選択肢もある。
- 僧堂施設の改修が必要かと
- 尼僧が安居出来るようになるのに賛成理由はそれが当然だから
- 安居できない現状が、どのような理由からなのか不明のため。
- 尼僧も本山で安居できるよう工夫は可能だと思います。
- 青山老師の西堂就任をきっかけに、これから尼僧さんの本山安居が実現するように願います。
- 男女を問わず
- 可能にすればいい
- 体制をとれるかを議論すべき
- 志願者は平等に受け入れられるべき
- 広く門戸を開く努力は必要。課題があり可能かどうかは別として取り組む姿勢は必要だと思う。
- 上記の設問が成立していないが、たとえ特殊安居だけでも女性も安居できる様にすべき。
- 修行の場（閉ざされた独特な環境）において、生活を同じくすると問題が起きそう。
- 尼僧が入るのはどうかという声がありますが、実際に体力面を踏まえると短期安吾をさせながら様子を見たほうが良いと思う。
- 男女共同安居が実際には可能であると考えるが、実現するには様々な問題・課題が生じると考える。
- 反対だが難しい面もある

- 教えの通りであり、さまざまな人数が減少傾向であることの対策にもなると考えるため
- この両大本山にて修行が出来ないという考えてる方が根本的に男尊女卑が存在している気がする。
- 現在の本山は男僧が修行する形で整えられており、急に尼僧が安居するというのは難しいかもしれない。ただ、同じ曹洞宗の宗侶なので本山で修行したいという志に対して同様の権利はあるように思う。現時点では、特殊安居のように期間を決めて安居することを認めても良いと思う。
- 過去に本山安居された例があるなら、その内容を知りたい。
- 発心あるものには門戸を開くべきと思う
- 昔からの伝統を変えるのは難しい差別ではなく区別なのだと思う
- 性の乱れが必ず起きる。
- 女性にも本山安居が開かれるべきだと思います。尼僧が本山に安居することで生じる懸念は、尼僧側ではなく本山の運営体制や安居者それぞれの問題であって、性差を理由に尼僧を受け入れないのは筋が通らないように思います。
- まだ考えがまとまりません
- 安居出来ないことはおかしいと考えるが、寝る場所等を別にしないと事件・事故が起きる可能性が高い
- 女性僧侶を受け入れる環境が整っていない。ほかに優先事項があって出来ていないのは分かるが、少しずつ進めても良いのではと思う
- お釈迦様の教えもそうである。適切な受け入れ体制を講じて、両本山ともに女性修行者を受け入れるべき。それをしないのは、お釈迦様・道元禅師・瑩山禅師の教えへの怠慢だと思う。
- 厳しすぎる。
- 道元禅師の教えに感銘を受け、本山で修行をしたいと思うのは必然的な考えだと思う。男女を論ずることなかれなので、そこを女性だからと断ることは思考として捉えるとやはり差別になるように感じる。ただ現実として捉えた時に、男性ばかりの四六時中の中寝食を共にしてとなることに、お互いにやりにくさが生まれてくるのも事実だと思う。理解を深め合えることは良いと思うが、修行に徹することに重きを置く場だと考

えると疑問に感じることもある。同じ本山内でどこか別々の場所での生活圏があれば良いのか。色々と論議してみるに値するものではあると思う。

- 少し、差別してるように聞こえるから
- 異性の存在は乱れになると考えております。男女間で恋愛関係になる等です。
- 堂則の変更が現状にそぐうかどうか。
- 本山内に尼僧堂を設けるなどができればと思います
- 尼僧が安心して両大本山に安居できるよう環境整備を行っていただきたいから
- 男女問わず、安居できることが望ましいと考えるが、現実問題としては不都合が大きい。自衛隊などと同様の事案が生じること必至。
- 環境を整えられるのであれば安居させてあげたいとは思います。
- 絶対有り得ないと思ったが、女子寮のようなものでも山内に建設すれば有り得るか。
- 条件が同じなら安居してもいいと思う。
- 本山僧堂の堂則に所謂、「女性」の安居規定されていない場合は、現況その声をもって賛否を議論することは、あまり意味をなさない設問と解します。
- 現成の本山の状況で女性の安居の受け入れ体制に大きな問題があるため。
- 両大本山・専門僧堂についても、尼僧が安居できる環境を整えるべきである。
- 安居できない現状がある以上、安居できる状態に変えていかないといけないと思う。
- むしろ何故女性は本山に安居出来ないのか不思議
- 宗門（特に宗政人）の現在の「僧堂改革」の理念に確固たる「方向性」と「理念」「現実を客観的に直視する努力」が欠如しているから。単純に女性教師に門戸を開いても本山僧堂・安居者当人にとっても不幸になると思われます。
- 尼僧さんを、受け入れる体制がとれていない様に思うから。
- 身体的な事で、すべてを同じにする事は難し所もあるが、女性の安居不

可とするのでなく、個人の選択により可能としていくのが平等ではないかと思う。

- 男だらけだから。
- 男性女性が同じ道場で安居するのは難しいと思います。
- 男女問題と四衆（比丘比丘尼優婆塞優婆夷）はよく検討されるべき。
- 性的なトラブルが必ず起きる
- 修行といえども、女性と男性、やはり環境整備や、規則整備をしないと問題が起こる。その整備が出来れば、同じ場所で修行を行っても良いと思う。
- 現実問題として男女が同一敷地内にいては、問題行動を起こすものが出る。別けるにしても現状では女性役寮が全く足りない。
- 男性の女性に対する性的な目や思考があるため難しいと思う
- 女性用の部屋、風呂など用意するべきものはあるが、それ以外は特に難しい問題ではないので、安居者として迎え入れるべき
- むしろ本山への偏重を和らげるべきであると考えるから
- 環境をととのえられるならという前提が必要。
- 選ぶ自由があればいいと思います。
- 人間の本能的な部分で、不必要な問題が発生しうる。
- 修行環境をととのえさえすれば出来ると思うから。
- 尼僧さんが両本山で安居するのはいいと思うが浴司や寝る場所などの問題があるので中々難しいと思う
- 寝食を別にする寮舎があれば、可能ではないかと思います。しかし、若い修行僧が集う場所ですので、軋轢や修行の妨げとなる事も生じるのではないかとも考えます。地方僧堂出身者である私は「どちらかで安居したかった」という気持ちは良くわかります。それも、もともとその機会が与えられないというのは、とても理不尽であると思います
- 全く同じようには難しいと思うが、今後は進めなければならないかもしれない
- お釈迦さまの時代でも戒を厳しくして分けていた。修行中の身であるからこそ男女を分けなければ、修行僧が迷ってしまう。ただでさえニラやニンニクを食べないようにしているのは匂いだけではなく、要らない元気をつけないためでもあるのだから、同じ空間での修行は難しいと考え

る。

- 女性に適した設備・環境ではないので改修・改善が必要であるため。
- 男性雲水の修行に対する意識が低いので一緒には難しいと思う。身体的能力の差もある。
- 養成所などは、女性もおられるので、良いかと思います。また、ただ、修行中の２０代の男の性欲を考えたら、何か事件があってはいけないので、ちゃんと、守る所はキチッと守ってあげなければならない。
- 同じ共同生活ができるならば可。
- 施設が充実すれば安居していいと思います。が、男側の問題もあると思います。私の知る限り尼僧堂が一番厳格な修行道場なような気がします。
- 現状での受け入れ態勢がわからないが、可能ならばよろしいのではないだろうか
- 一緒に修行して苦悩を分かち合う
- 体力とスパルタな部分への危惧
- 雲水も減って、吉祥閣の地下一階の部屋も空いてるはずだし、お風呂も役寮のも入れれば３つあるから、ファシリティーとしては実現可能だと思うから
- 本山に女性枠を作ってもいいのではないか
- 男女共に安居するのは難しいと思う。男女のトラブルに発展することも多くなる。どこで修行しようと教えや行履に仏が宿っているのだから問題ない。
- 本山安居が出来ない設備環境問題等の排除が出来れば良いと思いますが、その他にも課題があると思います。
- 男女差別があることは宗門として恥ずかしい
- 男性側は良いが女性がどう思うか分からないので
- 部屋・浴司などの整備が前提だが宗門から一定の補助をするなどして女性が寝泊まりできる環境を調える必要はある。
- 安居できない現状に反対です。女性用トイレや入浴施設等の整備。！
- 状況を理解したうえで来たいというのであれば拒むのはいかがなものかと思われる。女性だからといい修行の内容を易しくする、させることも正解とは言い難い。また、本山内で男女間の揉め事を起こさない工夫も必要になるのでそれについての対策ができるかが大きな課題と思われ

る。

- 男女を論ずること勿れ、とは、そういう意味ではないだろう。地方の専門僧堂を下に見ているような発言であり、不愉快。
- 同性のみの道場のほうが修行に専念できると思うが本山安居したいという意思も尊重したい
- 問題が起こる可能性がある
- 男子禁制の寺があるように女人禁制の寺があって良い。僧堂生活は性別を分けて行うべき。昨今明るみになってきた自衛隊の性的嫌がらせ問題然り。
- そのような声が尼僧からあがっているのなら変えていくべき
- 地方僧堂では実現していることなので、出来ないことはないと思われます
- 修行に集中するために男女を分けることには一定程度意味があることだとは思います。ただ、本山で修行したいという思いはとても共感できることなので、本山内で建物を変える、女性の役寮が常駐するとか、うまく区分けできる仕組み作りは必要だと思います。
- 尼僧を本山で安居させないという規定がどのような経緯で制定されたのかが不明。どのような人であれ本山で安居を希望すれば出来るような仕組み作りは重要だと思うが、それによる弊害も慎重に考える必要があると感じる。
- 尼僧堂に男僧が安居する選択肢も同じレベルで考えていかなくてはならないと思う。明文化されて禁止されているのかは分からないが、地方僧堂において尼僧の安居が認められている以上、本山においても認められるべきであるとは思う。
- 女性も両本山で安居できるようにシステムを変えるか、もしくは役員を変えるかする必要がある。
- とくに理由はない
- 道元禅師在世中は尼僧がいたという記録があるため。
- SEX 問題
- 本山がかわらなければ、宗侶の意識も変わらない(変われない）し、全体は変われないと感じるから。
- 地元での法本山安吾が出来ないと、法堂進退、法要等で、女性教師の活

躍の場が少なくなってしまうため。安吾出来る環境を整えることも機会均等と考える

- 女性が安居できる環境として両本山とも整っていないため。
-
- 同上
- 両大本山で安居をしてみたい
- 男と女と性別が違うため、別の場所で行うべき。しかし内容は統一するべき
- 本山での修行を経験してほしいから
- 工夫すれば可能であると思います。
- 女性にも本山安居してほしい
- 宗門や本山は出来ない理由を明記することが必要と思う。長期参籠者は許されているように思うので。また、他の道場では共同安居は実現されているようですので。
- 男女平等
- 女性が大本山で安居できるのは理想的であるが、そのためには建物も変える必要がある。その経費をかけるべきか議論が必要。
- 機会の平等性を担保する努力は試みるべき
- 期間を限定して行ってはどうか。
- 機会平等で有るべき
- 男女間の性的な問題が起こることは容易に想像でき、またそこまで行かなくとも、こころの寂静を保つことが難しくなることは間違いない。
  衆寮や東司を完全に分ける、別々の作務を行うなど、様々な配慮が必要になると思うが、するとまた差別問題が出てくるのが目に見えている。
  なにより、大衆の意識の徹底を図ることも必要。
- 理念としてはそうすべきだと思います。実行するには大変な改革が必要だと思います。
- 人が集えば必ず人間関係のトラブルが生じます。それは男性だけの道場でも、女性だけの道場でも、おそらく同じではないかと思います。そこへさらに、男女が衣食住を共にするとなれば、人間関係の複雑さは増し、生じるトラブルも多岐にわたるでしょう。男女が衣食住を共にすることで生じる可能性のあるトラブルへの対応を事前にしっかりと検討

し、女性教師の両大本山で安居したいという気持ちが成就される環境作りが進むことを願ってやみません。本設問では、両大本山が対象道場となりましたが、つまるところ「男女が共に安居する」ということの難しさへの対応を問われているように感じました。Q8・Q9 同様でありますが、まずは環境作りが大切なように思います。本設問におきましても、環境作りを前提に「反対」といたしました。

- 釈尊のお示し以来、修行の場では修行を行っていく必要上、男女の別が守られてきていると考えます。もしどうしても必要ならば別途、「本山尼僧堂」を開設する必要があると思います。一方で、いくつかの専門僧堂の堂則では現に尼僧様の安居を認めているものもあると聞いています。もし、本山僧堂において同様の堂則があり、本人の志願の気持ちが固く、受け入れる僧堂側でも対応可能であるなら、現状でも安居を妨げる理由はないと思います。また、将来、環境がより整備され戒律清規の上で尼僧様の受け入れに問題がないといえる状況になれば、尼僧様の安居を妨げる理由はないと思います。
- 現在の環境を考えるとどちらとも言えない。
- 様々な問題があるため
- 性別によって、安居できるかできないかを決定していること自体が時代錯誤
- 現代は環境を整えて安居を受け入れるべきだと思います。
  逆の例(男性が尼僧堂に安居)もあることを考慮すべき。
- 平等性に欠ける為
- 可睡斎などで安居されている尼僧さんをみると食事や仕事も特別扱いのような様子であるので、一緒に修行することは難しいように感じます。
- 修行する上であらゆる雑念を払い、修行に集中しやすい環境作りが最低限必要なことを踏まえ、尼僧さんと一緒に修行をするのは難しいと考えます
- 様々な問題というか、現状の中で女性が本山安居した際にプライバシーに関することやハラスメント的なことが障害にならないような環境が無いので、本山の造りの問題と役寮さんや男性安居者が男女差別に対する考えを自己啓発することが必要だと思います
- 機会は均等であるべき。特殊安居のような小さな規模での実施や、本山

女性寮舎などできることはたくさんあると思う。

- 女性の本山安居はあっても良いと思います。ただ、男女の関係になる者、法を犯す者などが現れる可能性が大きくなると思うからです。
- 若い僧侶の生活の中で女性への対策を考え無ければならない
- 議論不足と受け入れ体制
- 性差による問題が起こりうる可能性がある。僧堂や衆寮の作りなどが整備されれば可能だと思う。
- 尼僧さんにも本山で修行していただきたいと思うから
- 本山で安居したい気持ちもあるが、修行というのは寝食を共にする大変密なるものであるため、男女一緒というのもかなり難しいものと感じられるため。
  本山で男女共に修行するとしても、あくまでかなりの距離をとる必要があると感じているため。

Q１１・令和元年 7 月から令和 4 年 10 月現在までの曹洞宗内における得度男女比は、 ９６ ：４ です。曹洞宗は他宗に比べ女性僧侶が極端に少ない傾向にあります。通常、曹洞宗で規範とされる「剃髪」についてどう思いますか。あなたのお考えに近いものすべてを選んでください。

曹洞宗の僧侶は、剃髪を維持すべき　46（41%）、送行後は剃髪でも有髪でも自由選択を認めるべき　26（23%）、安居は剃髪でも有髪でも自由選択でよい 1（1%）有髪を宗門として公式に認可すべき 0（0%）、有髪を宗門として公式に認可すべきではない 2（2%）曹洞宗の僧籍を有する者であっても、有髪の者を本宗の僧侶とみることはできない 0（0%）有髪のままで曹洞宗僧侶として活躍ができるのであれば、寺院の後継者の選択肢が広がる 12（11%）、なんともいえない　26（23%）

Ｑ１２-１・曹洞宗門内に、ジェンダーバイアス※４が存在すると思いますか。あなたのお考えに最も近いものを一つ選んでください。

※４ジェンダーバイアス＝性別・性差に由来する固定観念や偏見

存在する　131（62％）、存在しない　7（3％）、どちらともいえない　75（35％）

Ｑ１２-２・「存在する」を選ばれた方にお伺いします。もしよろしければ、ジェンダーバイアスが実際に存在・作用していると感じた場面を教えてください。

自由記述

- 男尊女卑は常に感じる。お寺の跡取りとして男性が重宝されてきた歴史がそうさせているのかな。と常々思う。ジェンダーバイアスは常に感じるので、特にどの場面で感じるとかではなく、日常になってしまっていて、それに慣れつつある自分が怖い。
- 女性＝寺族と判断する方が多い
- この職場はゴリゴリありますね。流しは事務員さんが洗いましょうね的な空気や、日々のお茶出し、席順など。笑えるほど沢山ありますね。
- 住職＝男性寺族＝女性また、僧侶について話すときほぼ男性を指している現実
- 男性性を基本として会議などの意思決定がなされている。例えば、合理的な答えを必要とする場合や、女性がいないことを前提とするような下品な話、記念品を贈呈するときに女性職員が行うなど。悪と断罪しているわけではないが、バイアスとなっている。問題点は、それがバイアスではなく常識であるとされている点ではないだろうか。
- そもそも汎地球的にジェンダーバイアスが存在しない世界に未だ到達していないのだから曹洞宗でも同様だろう。僧侶、教師における極端な男女比自体がそれを物語っている。
- こども、育児休暇、育児と仕事に関する会話を耳にする限り、曹洞宗に限らず日本の母親が育児に関してもつ責任と権利はカナダ、アメリカでのそれよりも圧倒的に偏りがあると感じる

- 大きな法要で、尼僧はいつもお茶汲みさせられてる。
- 男性が偉いというのが態度にでてる
- 今
- 周りに男性しかいないため
- 上に当たる者から、性差別にあたる発言を耳にしたことがある為
- 議会配役の茶所や事務員の存在。また、女性自身もそこに甘んじているように思える。
- 法要等における尼僧の配役
- 北海道に尼僧さんが極端に少ない為、檀信徒さえも存在を知る機会がない
- 以前まで尼僧の方は末席に案内させられていた、また女性の僧侶が少ないので男性僧侶からすれば壁を感じやすい
- 女性が喪儀や法事の読経に対する理解はまだ低く、男の人の方が供養されている気分になるので男性僧侶に読んでいただきたいという檀信徒からの意見を聞いたことがある。僧侶側だけでなく檀信徒の啓発も相当行わないといけない
- 教区等法要の場において、尼僧さんが、儀式に参加しないで、お茶くみをしていた。
- 女性寺族がお茶出しや食事の支度をやらされている場面
- お茶出し、会議で電話番など
- 先輩から尼僧さんは男僧さんの前に出てはいけない、座る席はいつも末席に座りなさいと指導されました。
- 尼僧は発心があり有能であったとしても寺院後継者の男性僧侶と同等の活躍ができない現状
- 私自身に固定観念があるから
- 男らしく女らしく、お茶出し接待は女性など、潜在的なすり込まれている考えが当たり前のようにある。とても気をつけているが自分にも固定観念や偏見は無意識のうちに少なからずあると思う。
- Q7 の人数比をみれば明らかではないかと思います
- 法要などでの配役に差がある。寺院継承に差がある。有髪による固定観念(男性のうち、学生などの出家剃髪(徒弟)にはそれほど厳しくないが、有髪の女性僧には仕事に対しての覚悟があるのか、無いのかなどと

言われている）

- 現在教区長をしているが、他県の御寺院に「群馬はそんなに人材不足なのか？」とマジで言われた。
- 法要の際でも、尊宿位に女性の僧侶がつく事がほとんどない。
- 寺院のあとは男がするもんだという考え
- 「お前は俺らと一緒だと思っているのか」との言葉を男僧から直接浴びせられた。
- 女性僧侶が、法堂配役にあてられず、常に裏方の配役にあてられていた
- 「ジェンダーバイアス」の定義に当てはまるかわかりませんが、寺院においては僧侶（殆どが男性）を寺族（殆どが女性）が支えているのが実態だと思います。女性僧侶を男性寺族が支えているというケースがあるのでしょうか？
- 僧堂安居。葬儀関係。もともとの風潮。宗侶と檀信徒双方から
- 曹洞宗内で尼僧さんの扱いについて、お茶出しなどの雑務を任せているような印象を受けています。
- 寺族(特に奥さん)の扱い、補償が悪い
- 寺族よりの電話だと思ったら尼僧の住職だったことがあります。
- 職場でしょっちゅう感じます 37 年間ずっと感じてます
- 女性はお茶をだす。男性は力仕事をする。と決められている感じがするし、発言も聞く。
- 大きい行事でたまに会う別教区の尼僧さんが典座寮以外の役に当たっているのを見たことが無い（普段の教区内行事の様子は不知）
- 戒名
- 尼僧は地位が低いと言われたことがある
- 職員、宗議会議員、宗門僧侶との会話の中で言葉の節々に感じる。寺族の立ち位置などからも。
- 法要の際、男僧が上位に配役されがち
- 男性が後を継ぐという大前提の常識の中にあるので、女性で僧侶になろうと思う人はファーストインプレッションで変わり者なのではないかと思われている。
- 現在でも偏見を持つ者もいるから
- 尼僧さんの話題になった折りに必ず「女は考え方が違うから」と結論

づけられる

- 宗門内に限った内容ではないと思いますが、女性であれば細かい作業が向いている。事務的な働きを期待する。対人コミュニケーション能力が期待される。など、個人の素養や能力を勝手に判断する場面は多いように思います。
- ・寺族研修会の内容・尼僧さんが茶頭などの配役
- 高齢の尼僧様でも若手男性僧侶に極端に謙遜される方が多い
- 尼寺の存在。また、「家制度」と「嗣法の宗務庁への登録制度」が密接に結びついてしまっている。「法を嗣ぐ」ではなく「寺の跡目を継ぐ」になっている。すると男性継承を原則とする家制度では男性優先となる。まずは宗門の嗣法制度を本来のあり方にしないと、実際の子息以外へ僧侶への門戸が開かれなくなる。
- 長男が寺を継ぐという宗門内外にある偏見に苦しむ。それは子の時代であっても、親になってからであっても。それと自身の考え方についても、やはり女性宗侶の方にお会いした時に、ついつい同じ宗侶だとしても女性なのでと構えてしまうような感覚になる。何か研修などで重いものを運んだりする時には、女性宗侶の方が頑張って運ぼうとしてるのを、ついついこちらでやりますよ(女性は男性よりも力が劣ると勝手に思い)と手を出してしまったり等。
- 曹洞宗における役員の男女比が正に物語っている
- 宗門内にも、日本社会と同様の前時代的な男尊女卑感の存在を感じる。
- 昔は尼僧さんのことを庵主(あんじゅ)さんと呼んでいました。これは親しみやすいからか、下に見ていたのかわかりませんが。存在しないわけありませんしね。
- 年齢を考えると致し方ないが、法要時両班へ尼僧様を入れるよう配役を組んでいない。
- ジェンダーバイアスかはわからないが、来客や部長に対して女性がお茶出し・菓子出し業務を自然と担っている場面を目の当たりにした時。
- 位牌の置く位置。
- 会議等に圧倒的に女性の参画が少ない
- 男尊女卑で意見が通らない

- 尼僧団そのもの。二期法要など。
- 寺院法要など、尼僧というだけで両班など法堂ではなく、知客などの役に当てられることが多い。
- 尼僧団という団体がある時点で、なにかしら差異がある証拠。
- 感じた場面はないが、存在しないと言い切ることができないため
- 尼僧だと法要などで、お役が？
- このアンケートの様に、女性、男性と言い切るところ
- 尼僧さんは変わっているなど、偏見的な見方を耳にしたことがあるから。
- お寺にいる人を想像した時。住職=男性、寺族=女性のイメージがつよい。むしろ、逆の設定が思い浮かぶ人はまず居ないのでは？
- 尼僧や寺族がお茶くみを強いられる現場。
- 団塊世代の庫裏に対する扱い
- 尼僧に対して、周りの老僧が、あいつは女なのに～など、陰口や小言を言っているのを何度も聞いた。
- 宗門内で具体例というのをすぐに思い浮かばないが、中国の天童寺は僧堂内に入ることに難色を示したと記憶してます。
- 行事の配役。お茶汲みばかり。
- 尼僧の少なさ
- 女性住職の法堂進退が苦手なのを鼻で笑ってる場面がありました。
- 男の子供が生まれた時に、[お寺の跡取りができてよかったですね]と言われた時
- 僧侶の話の中で平気で話している現在を見て恥ずかしい
- 行持の配役に茶頭や厨房係が多い。
- 幼少に面倒を見てくれた尼僧さんがいたが、尼僧だからという理由で人前に立つ配役（送迎といった）にはあてられず基本接茶係ばかりだったことが幼少期から疑問に思っていた。
- 私自身の中に存在する。剃髪した女性僧侶を見るたびに驚くとともに畏敬の念を抱く。女性僧侶は皆、自分よりも真摯な気持ちで出家した存在と見做している。
- 大きな法要で女性教師は接茶寮配役に当たっていることが多い
- そもそもジェンダー・バイアスを感じるほど尼僧との関わりがない。

ジェンダーによるバイアスというよりは尼僧堂で青山老師の元で伝統的で厳しい修行をした人たちが大多数を構成しているイメージはある。

- 組織規模に対する女性比率
- 尼僧の晋山を法類が拒んだとを聞いた。
- つい先日、教区の役員を決める会議に手、教区内の僧侶から「尼僧さんには申し訳ないが、教区の役員は男僧から選任することになっているので、通例に従いそうさせていただく」と言われた。それがまさしくジェンダーバイアスといえるのではないだろうか。また、そのような教区の現状を踏まえ、ジェンダー不平等をやめてほしい旨、別の機会に発言した折、別の僧侶から「ここにはジェンダー不平等は存在しないのに、そのような発言をしたことが不愉快。今後、ジェンダーに関する発言や行動はつつしむように」と言われたが、いまもって納得いかないので、ジェンダーに関する発言・活度は続けている。
- 法要等での法堂内配役に女性教師が入っていない。接茶の配役が多い
- 女性僧侶の活躍
- 本山僧堂に安居できない。
- 尼僧という表現は如何なものでしょうか
- 女性の子供さんに対しての扱いが粗い。
  尼僧さんは、庵寺にお住まいのことが多いように思われます。また末席に居られることが多いように見受けられる。
  ジェンダーバイアスはもちろん、家父長制の傾向が極めて強いと感じられる。
- 独身の女性住職が結婚し、子を授かる時
- 法要等での配役
- 当地では、例えば尼僧さまは会派の集まりに招集されないようですし、役員にも選出されないです。触れてはいけない話題のような雰囲気すらあります。
- 女性教師に対して、聖なる存在として男性教師が接することは現実的にあると思います。それが、良くも悪くも男女教師間での心の距離へと繋がっていく可能性も否めないように思います。具体的には、教師間の懇親を目的とした飲酒などをともなう会席にお誘いしてよいもの

か？など。男女比に偏りがある以上、男性教師も女性教師と接する場面が少なく、どのように接していいのかわからない男性教師も多いと思います。

- 末寺徒弟の立職のため、結制修行予定のご寺院様に「首座をつとめさせて頂けないか」とお伺いしたところ、はっきりとは言われなかったが「うちの結制に尼僧さんの首座はこまる」というニュアンスの言葉で断られた経験があります。
- 私は長野県ですが、特に長野市内には高齢の尼僧さんが多くいますが、いつも雑用などやらされて、男僧の方々はしっかり年功序列と寺格で縦割りの関係だか、尼僧さんに対しては全くそのような立ち位置が無い
- そういった場面にはあったことはないが、無いことは無いと思う。
- 自分自身が頭では理解していても、時として女のくせに男だろといった言葉や思いがよぎることがある。
- 大きな法要の際、女性僧侶は法要の配役には付けられずに積極的に接客に回された。

Ｑ１３・曹洞宗が男女平等に活躍できる環境を整えていくために、今後必要と思われることは何ですか。あなたのお考えに近いものすべてを選んでください。

男性の意識改革 152（17%）、女性の意識改革 107（12%）、制度的改革 119（13%）、役員における女性枠の設置 64（7%）、他宗からの学び 116（13%）、社会からの学び 116（13%）、男女の話し合いの場の設置 94（10%）、男女共同安居 42（５%）尼僧の本山安居 65（7%）、有髪の公式認可 30（3%）、特に必要ない 13（1%）

Ｑ１４・曹洞宗内の「男女が平等に活躍できる環境作り」に関するどんなことでも結構ですので、あなたのお考えをお聞かせください。

自由記述

- 伝統や文化などあるため、男女平等な環境づくりは不可能。

- 例えば係長に女性事務員がなれない問題に関しては、この組織が係長に何を求めているかが問題なのだと思う。一般の会社であれば、役職者に求められるのは能力や他の規範になりえる人材だと思うが、宗務庁は在籍何年経たないと係長試験を受けられないという様な決まりが以前あったかと思う。そこがまず問題。役職者は性別や在籍期間に関わらず、能力で選ばれるべき。通常の組織は、自身の業務実績、業績を評価されそれに寄って基本給も上がるのが一般的だが、この組織はただ居るだけで年功序列で基本給も上がっていく。その様な組織では向上心ある人材は育たない。何の実績を残さなくても次年度は今より良い給料がもらえ、能力が無くても決まった年月在籍すれば係長になる権利を獲得できるというのは、逆をいえばどんなに能力があっても長く在籍しなければ係長になれないので、向上心ある人材のやる気も削がれる環境。今の制度では、ただ居ればいいやという考えの人材を量産するだけだと思う。平等に活躍する為には、平等に正当な評価を受けられる環境が無ければ始まらない。
- この問題は様々な要因によるもので、単純に数を揃えるだけでは解決しないと思う。現在に至った経緯、要因を考えていく必要があると思う。
- 他宗とくらべても遅れている部分があると思う
- 女性僧侶への教師資格取得の緩和（課題有り）
- 実際に尼僧の意見を聞きたい。
- 流し当番を積極的にやろうかなと思っています。
- 出家教団という特性上、僧籍の問題が大きいと個人的には思います。同じ女性でも尼僧と一般女性ではおかれる立場が違います。また宗門で一般男性が活躍する場面も無いと思います。
- 平等性ではなくて、どちらかというと公平性が問われているのではないでしょうか。
- 男女関係なく適材適所で役割分担するのが無難だと思います。
- 曹洞宗は僧侶の団体ではなく、曹洞宗を信奉する者にとって必要な団体であるはずなので、僧籍を持つものだけの意思決定を辞めることが必要だと考えている。曹洞宗の選挙制度や、代表役員が住職のみであることなど、僧侶のための組織形態となっている部分の改革がなければ、女性性を生かした組織作りは不可能ではないだろうか。

- ジェンダーバイアスのない世界のほうが少ないと思う。男でも女でも個人を理解しあえれば性別なんてどうでもいいと思う。
- 「曹洞宗内の『男女が平等に活躍できる環境作り』」というテーマ設定自体が大きすぎると思う。宗門における「立法府(宗議会)」「行政府(宗務庁)」「司法府(審事院)」それぞれに女性の視点を含む多様性が求められるとは思うが、必要な措置は違ってくるだろう。寺族の皆様も今現在において各寺院でご活躍いただいていると言えなくもない。尼僧に係る問題も尼僧の意志をどう教団へ反映させるかの問題と、そもそも尼僧の数的な増加の問題では論点がだいぶ変わってくるのではないか。そして男女以前に「そもそも宗侶は活躍できているのか？」という所から考える必要もあるだろう。
- 役員の勉強
- 卵が先か、ニワトリが先か、ではないが、活躍できる環境を作るためには、すでに活躍している人がいなくてはいけない。北アメリカは比較的男女関係なく活躍されている。ただ、平等というのは数字ではないと考える。平等にであれば、活躍している男女比も 97:3 である。活躍している人数を 50:50 にする必要はない。北アメリカでは男女を平等にすることに重きをおいていることは事実であるが、間違っているのではと思うこともある。例えば、北アメリカの僧侶が 100 名で、男女各 50 名ずつだとして、会議の招待状を全員に送ったのだが、出席者が男が 40 人、女が 20 人の際に、「また男ばっかりではないか」と言われることもある。しかし、会議の出席は我々でコントロールできる問題ではない。外からみた「数字」も大切ですが、その内情や理由も把握することが必要であると考える。平等に活躍できる環境作りには大いに賛成であるが、一朝一夕で達成される課題ではないと思う。微力ながら協力できることございましたら何なりとお申し付けください。
- そもそも尼僧さんが少ないので女性の議員数なのがいないのはしょうがないとは思うが、体制の再思考は必要だと思う
- 男女平等を考える上で、家庭と会社、公私のバランスの対する現状の固定観念と向き合うことも大切だと思う。あと、在家である寺族との間にも、しっかりとした理解が育まれることの必要性を感じる。
- 平等と言いながら、女性からのジェンダーハラスメント(状況、環境含め)

に振れない様願う

- 意識改革はもちろん必要だが、まず制度を整備していくことから始めなければ…
- 昔の流れも大切だが、ある程度時代の流れに沿わないと前に進まない。
- 普段女性の活躍ばかりを目にしており、むしろ男性が活躍しない方が社会がよくなるのではないかと感じるほどであり、男女が平等に活躍できる、という考えがいいものなのかよくわからない
- 尼僧さんだけのイベントを大々的に開催し世間の評価を公表し、男性僧侶の方に世間からの尼僧さんに対する評価(尼僧さんが世間に求められていること)を知って頂く。
- 男女問わず、覚悟をして僧侶になるのだろうから男性と同じように精進していかれるといいと思います
- 女性用の様々な制度が必要ふ
- 宗務庁内に限る話になるが、服装について男性はスーツ、女性は自由というのもある意味男女で「違う」という考えや見方を意識してしまう一端でもあると感じる。そういったところから変えていく意味はあると感じる。また女性視点ばかりの話ではあると思うが、男性が事務員を務めることも寛容になってもよいのではないかと感じる。能力は男女に関わらず異なるわけで、男性僧侶＝書記、女性＝事務員という概念も変えるべきと感じる。
- この件に関する、何がどう問題なのかの話し合い。
- 職員一人一人の適性をきちんと見る能力のある人が役職員に就けば、男女もなく適正な職務を見出し、誘導することができるのではないでしょうか？男女もそうですが、ただ長いだけ、ただ男性だからで役職に就くのはもう終わりにしてほしいです。
- まず曹洞宗の事務機関である宗務庁が事務員と書記の給料を同等にすればいい
- 剃髪に抵抗があるのであれば、僧侶以外の生きる道もあるのでは？男女は平等ではありません。比べれば優劣があるのは当たり前のことです。この様にいうと男尊女卑と捉えがちですが、生物学上違いがあるのは誰の目からも明らかです。どちらも優れた存在として僧侶の本分を全うすれば良いとおもいます。ただし、宗門の縦割り社会、議員制や本庁の体

質には男女の問題以前の優劣の差が存在するのでは無いでしょうか？

- 平等って難しすぎてわからない
- 宗門の機関であるので、僧侶(教師)を条件とすることは必要であり、一般企業での男女平等概念とは異なると思う。もちろん、男僧尼僧で格差や差別があることは許されない。
- 男僧と全て一緒にする必要は無いし、尼僧ならではのメリットも沢山あるので、それを活かせる場を沢山開拓して欲しいと思う。
- まだまだ檀家のあるお寺の住職が女性に抵抗がある風潮が見られる。これの改善も必要かと思う。
- 教区会等で学習できるような資料あれば、意識改革も進むのでは
- これをすれば万事解決するということはないと思いますが、男女平等という目的を設定し試行錯誤していくことは、曹洞宗という教団が社会に対してアピールするきっかけになると思います。剃髪に抵抗があって得度をしない、後継者にならないと選択をするのは、女性に限った話ではないと思います。
- 個人の適正に合わせて活躍できるよう、仕組みがあるとよいと思う
- Ｑ１３の設問に無かったですがまず檀信徒の啓発を充分に進めていくことが、曹洞宗僧侶として男女平等に活躍できる環境作りでないでしょうか？
- そもそも積極的に女性が制度改革をのぞんでいないのでは？
- うわべの平等で女性を矢面にさらすつもりはない。これからも女と子供は守っていくぞ。尼僧の育成は急務だ。補助金を支給すべし。宗務庁は事務屋になるな、衆生済度の信仰心をもっての宗務をせよ。
- 女性枠を作ることより、意識改革が先だと思います。
- 一般社会では、若者夫婦の共働きが当たり前の時代となり、妻が家庭で家を守る、妻が家事をするという昭和の時代の常識は無くなりつつあります。しかし、宗門内の家庭を持つ住職の中には、お茶出しや食事の支度などは女性の仕事と位置付けている者がまだまだたくさんいる（庁内にも多い)。また、庁内事務員の職務を明確化するとともに、女性だからと言ってお茶出し等をさせない取り組みが必要である。係長及び課長への昇進については、個々に対するその意欲があるか否かを調査してから論ずるべきと考えます。

- 女性職員の課長や係長の登用について、僧籍がない人でもなれるよう研修制度をつくるなどする。
- 法要のお手伝いに限った話になるかもしれませんが、男僧さんは本堂のお役、尼僧さんは知客（お茶係）という形式があまりにも続きすぎて、尼僧さんも進退に明るくないことから尼僧さんでもこのままでいいと思う方も多いようです。もしこれから変わるきっかけがあるのならば尼僧さんが進退を含め色々な事を学べるような両本山に研修安居ができればいいなと思います。もちろん地元での知客の配役もちゃんとしながら、たまには男の方と交代交代で本堂の配役、知客の配役をつとめればいいのにと思います。
- 宗務庁民営化とまではいかなくとも、築地本願寺の組織改革をモデルケースとして、宗門内にビジネス思考を敷衍させる必要がある。曹洞宗としてのミッション・ビジョン・バリューの策定(標語や告愉ではなく。曹洞宗が何を目指しているのかわからないため)。葬儀・法事以外の収益モデルを作っていき、ブランディングをする。葬儀・法事の布施収入に頼っているうちは、アンコンシャス・バイアスが強い世代によるトップダウン運営が変わらないため、男女平等に活躍できる環境は整わないと思います。要は抜本的な改革がなければ、尼僧議員を登用しても形だけに終わってしまうのではないかと懸念します。
- 制度の整備
- まず、早急に宗務庁女性部を開いて、そこから道筋を開いていけば良い
- 地元で他宗派の青年僧侶と協力して青年会活動をしています。その中では他宗派の女性僧侶が活発に意見を述べ男性僧侶が「気付き」を得られることもあります。曹洞宗女性僧侶の活躍に期待します。
- 先ず議員改革
- 宗内だけでなく、しっかり外部機関の状況を見て学ぶこと。男女で話し合いを進め認識のズレを無くしていくこと。
- まずは他業種の取り組みを現職研修等の機会で学ぶ機会があると良いと思う
- 僧堂修行を男女関係なくおこなう事にすれば、男女の平等性は促進される。男女の平等性は自然と実現していく。そのための宗制変更、施設完備、そして宗制などの規則るいの

- 他宗派、他宗教の事例をモデルとして参考にすることが重要と思います。
- お互いの存在を認め合えるような場があればいいだけだと思います。
- 若者の交流会等の充実
- 平等とは何か？という問いが必要でしょう
- 女性僧侶が極端に少ない中で、女性という理由だけで重要なポストに就くのは違和感がある。
- 曹洞宗の本質から逸脱せず、誰もが活躍できるとよいと思います。今回のようなアンケートは素晴らしいと思います。人数の少ない女性の声を大事にしたい。具体的な学びの機会があると助かります。
- 議論をすることが目標にならないでその先に実行されることを望む
- とにかく一般社会の成功例を色々取り入れる事が重要ではないかと思います
- 多様な視点をもった幅広い人材が活躍していくことは、曹洞宗にとって有意義なことだと思います。
- 男女を論じない
- 他宗、真言宗の尼僧様はお子様の学校行事の際にウイッグ(カツラ)を被っていると話してました。短髪くらいなら問題ないと思うが、社会的には丸坊主の女性は特異に見られると思います。浄土真宗の女性和尚様は有髪で、寺の法務の他に社会の中でお仕事をされております。有髪なので、特異に見られることはないと思います。また、他宗では寺族(寺庭)様や坊守様などであっても積極的に法要や檀務を一緒に行うようです。曹洞宗は住職は本堂で法要、妻や家族は庫裏で留守番やお茶出しのようなイメージが強いですが、各寺お寺というひとつの枠の中で教師資格があるとか、僧侶とか、住職の家族だからと別け隔てて仕事をおこなっているわけではないと思います。檀家さんの支えとなる心構えで共にお寺を守っていこうと考えております。お寺に住む家族皆で行うことが、檀家さんや地域から信頼と安心を得られるのではないでしょうか！住職の法務や説法だけで安心を与えているのわけではないと思います！本山安居修行に関しては女性僧の安居を認可したとしても、男女混合というよりかは、本山研修や特殊安居などで対応可能かと思います。有髪の件は規定はあくまで剃髪とありますが、一般社会の中での生活もあることなので、柔軟に対応していくのがよろしいかと思います。

- そもそも親である住職と寺族が娘を剃髪させることに抵抗があり、女性は結婚するのが幸せ、と固定観念を持っている。剃髪して結婚出産し、寺を継いでいる尼僧さんも最近は増えた。そういうロールモデルがあることをもっと親世代に知らしめ、女性の剃髪出家は特別なことではないとムーブメントを作り、寺院子女の出家の絶対数を増やすことでしか根本解決にはならないと考える。宗報と一緒に、てらスクールのような小冊子で、様々なスタイルの尼僧の存在や活躍、尼僧ならではの寺院トピックなど掲載し、定期的に全国寺院に配布するなど、しきいを下げることから地道に始めるのが実は一番の近道だと思います。
- えらい人が積極的に女性の意見を取り入れる、聞く姿勢を見せる事が大事だと思います
- 剃髪が１番大きい壁になると思うので、そこをもっと柔軟に対応できる環境作りが大切だと思う。
- 剃髪も大きな理由であると思うが日本の社会の考え方としてお坊さんは男だという考えがあるのでなかなか難しいと思う。まずは安居の環境を整えることが大切
- 特にない。日本政府と足並みを揃えてほしいです。
- 色々ものを見て取り入れるべき
- 男性僧侶の意識改革に尽きる
- 女性枠の設置等は好ましくないと思う。女性僧侶の母数自体が少ない現状でそれはどうなのかと感じます。
- まず、両性できちんと話し合う場を設けるべきだと思います。
- この取り組みについては、他宗の制度を学び、取り入れられそうなものは取り入れた方がよいと考えられる、海外の僧堂では規律のもとで女性と男性が共同で僧堂生活を送る事例もあるため、参考事例とするのも良いのではないか
- 地域によっては男性僧侶と女性僧侶の交流が乏しいので、その様な機会があれば良いと思います。また本山に限らず、安居を共にすれば大変なことですが男女互いの意識が変わると思います。
- 禅宗の厳しさは守るべきだと思う。その中で有髪は許可すべきではないと思う。
- 活躍したい女性がどれだけいるのかを把握することがまずは必要ではな

いでしょうか？実は、尼僧や宗務庁女性職員で、禅師や本山役寮、係長・課長になりたい人なんてゼロなのでは、と思う。まずはそれを確認してもいいのかなと思います。男性のぐっっっちゃぐちゃでドロッッッドロの政治活動に巻き込まれたい尼僧さんがいるのかどうか、とても疑問です。

- 足下から見直していくべきかと。問 9 の「過去、曹洞宗宗務庁の課長、あるいは係長に女性が就任したことは 1 度もありませんが、今後「女性枠」を設定する」必要があると思います。
- そもそも男女に関わらず、差別的・排他的な側面は垣間見えるし誰しもが平等ではない。僧侶が数世代前に妻帯するようになり、自坊では他御寺院様からイジメがあったと聞いた。また、宗侶の総数自体が減少していくという実感もあるのでこちらをたてればこちらがたたずというような話かとも思うし、実際に今の寺院間の関係性や環境・雰囲気としては自身の娘に対しての得度、或いは、宗侶にどうか？というような話は持てない。
- それを制度として定めるのではなく、意識改革によって自然にこれが行われるようになることを目指すべき。もし制度を設けるのであれば、それは時限的・過渡的な制度として考慮されたほうがいよいと考える。
- 教育
- 性別や有髪などに関係なく、真摯に仏道を求め歩もうとしてるのか？が大事だと考えています。地位や役職にこだわらなく真剣に仏道を歩む尼僧さん方の存在を男僧も見習うべきだと感じています。
- 他から強制させる差別解消の意識はあまり意味がない。私を含め、まず 1 人 1 人が男女差別の意識を持っていると認識する事。自分は差別してないと思い込んでいる人が多い。その問題意識の啓発の場があればいいと思います。
- 「平等」が今一つ見えてこないまずは情報共有が必要だと思う
- 一人一人が「男女が平等に活躍できる環境作り」ということを人ごとにせずに、まず当事者意識を持つことが大切であり、制度改革ももちろん必要ですが、意識改革がまずは大切だと思う。
- 世間の顔色を伺うとかではなく、思ったことを実行すべき
- 僧侶になりたい女性が圧倒的に少ないことが宗門内の男女比の偏りの最

大要因かと思う。女性の有能な人材を逃すのはとてももったいないので、女性が得度をすることに魅力を持ってもらうにはどうしたらよいか考えていきたい。また、そのための環境づくりも整えなければならないと思う。

- 改編の初期はある程度、強引に進めていく必要があります。その後、緩和して改正していくのも良いかと
- このような議論が活発になることを望みます
- どういう部分で格差が生じているか、意見交換をする場を設け、共有していくところからはじめれば良いと思います。
- 男性も女性も情報・知識が不足していると感じます。知らない事を知ろうという気持ちや、現状を俯瞰的に見ることが求められ、変わる時にあると感じます。知り、学び、実践していければ環境は改善されると私は考えます。
- 私が勉強不足なので、不平等を感じる方がどこにどのように不平等だと感じているのか？その声をまずは聞きたいと感じました。より多くの尼僧さんにこそ、お答えいただきたいアンケートであると感じています。
- 男女を問わず
- 「女尊男卑」になってしまったり宗風が崩れてしまって取っ散らかる事にならないよう気をつけたいです
- 恋愛による山内トラブルさえ防げればと思う
- 尼僧の本山安居が可能になることが重要
- 何か一つの手段よりも、継続した取り組み、こつこつやり続けること大切だと思います。
- まずは女性の地位を上げる制度を作るべき。
- 今の社会常識の中で、女性だから登用すべきでないと頑固に抵抗している人は、少ないと思います（いないとは言わないが)。一番多い意見としては「めんどくさい」ということだろうと考えます。本山の遠忌法要等で随喜の女性の人数が増えると控室が倍になる問題があるので、触れたくないという意識があると思います。以前本山随喜の同じ役職に男女がいたときに控室が同じだったので、部屋を分けるように依頼したところ、本山からの回答は「つい立でいいですか？」でした。性差を考えたらいいわけないですし、それを強制するのは着替えを伴うのでセクハラ

です。宗内の女性の窮屈さは、以前のような男尊女卑というよりかは、設備面やこの変化に対応できるだけのマンパワーが必要だと考えます。

- 男女両方の認識を変えてくしかないと思う
- 男女がそれぞれ活躍できることは重要であると考えるが、全てを男女平等にする必要があるか疑問である。
- 僧侶に男女は関係ないと思うので女性が活躍しやすい環境になることを願います
- 時代に合った施策が実現することを期待する
- 男女平等の声が上がってきてることはとても良い事だと思う、しかしながら現実になっていないのは事実であり、今後の男女平等を願う、個人的にはもう男女枠の存在はすぐにでも実装してもよいのではないか？
- 男僧尼僧それぞれにお互いを知らないことが多いと思うので、話し合いの場やお互いを知る場を持つべきだと思う。また、寺族さんが意見を言い、それを共有する場もあると良いと思う。
- 怖くない尼僧さんと会ったことがない。慈愛溢れる尼僧さんが増えてほしい。
- 出家については発心する男女は平等。宗務庁役職員については僧籍にかかわらず役職を与えるべきと思う
- 生まれながらに差異のある私たち人間を平等という言葉で表すことはできないと思うまずは女性の僧籍を持つ方を増やすこと、話し合いの場を持つことが大切なことと存じます
- 有髪で活躍される他宗派の方を参考にさせていただく
- 性差に関わらず、宗門内で活躍する人材が増えることは大変喜ばしいことです。しかしそういった活躍の場に立てる人材が、能力・適正・結果などでなく、性差や縁故、人間関係等の些事によって追いやられてしまうことは避けるべきです。その意味で、肩書きや外見に依拠しない建設的な議論や円滑な意見交換を促進する環境づくりが、結果として「男女が平等に活躍できる環境」に結実するのだと思います。また、そもそもの活躍できる人材の育成として、社会の実情に反応しながら自ら活躍の場を拓いている宗侶の支援や、個々人の活動を宗門内のネットワークで繋ぎ規模や持続性をバックアップする仕組みも「環境」を整え、一部の活躍できる人材に依存しないサイクルを生み出していくために必要な工

夫であると思います。

- ・対話文化の醸成が必要
- 仏道を真剣に参求する人を増やしたいのか、後継者問題を解決したいのか、宗務所職員の男女比を是正したいのか、でやらなければ行けないことが大きく変わってくると考える
- 有髪に関しては男女平等に剃髪すれば良いのではないかと考えています
- 「嗣法する師匠がいてはじめて僧侶として登録できる」ではなく、「一定の条件（修行期間など）を満たせば僧籍簿に登録できる」という制度にする。嗣法は個人間の宗教行為であり、宗務庁のような行政機関が踏み込むべきではない。女性や一般出身の僧侶に広大な門戸を開くことになる。
- 女性も曹洞宗のお坊さんになれるという社会の意識づけが不可欠。
- 男女という概念すらも最近は曖昧になってきているように感じる。男性も女性も一つの人間として、お互いを尊重し、良い距離感を作りあげていくことは大事であると思う。その為にはやはり膝を合わせて、会話を重ねていくしかないと思う。若い僧侶たちが色々な考えを出して会話しようとする姿勢を、無言の圧によって、しにくくさせるようなご年配(バイアスで恐れ入ります)の方が、あまり上に立たれないでこの推進がうまく進まれることを願ってやみません。
- 互いの意見を話し合う
- 壁となっているものがあるのでしょうか？あるとすればなんでしょうか？アンケートに回答しながら終始疑問でした。
- 出家をする意味をよく理解してほしい。特に剃髪することには深い意味があり、他宗との大きな違いのひとつでもあります。曹洞宗の大きなストロングポイントでもあります。反対に一定の条件を満たした僧侶であれば男女関係なく活躍できるように改善していきたいです。
- 男女問わず望む人は僧になれる制度があればと思います。
- 私たちの根底にある意識、制度から見直していく必要がある。他宗から、社会から広く学び、男女問わず平等に協議していく曹洞宗でありたいと考える。
- 女性が絶対的に必要な状況、システムを作る。圧倒的に女性が得意なポジションを、宗務の中心に位置づける。

- 数を増やすことが平等だと思っているなら、それは間違いです。平等の意味をちゃんと考えて頂くのがよろしいかと思います。
- 尼僧堂への教育研修予算の増額
- 環境を整えるのは必要と叫ばれてもお金の伴うものになると叶わない。環境が整って今掲げている理想が叶った時の弊害を考える必要がある。
- 「男女が平等に活躍できる環境作り」とは何かを色々討議していくことが先ずは必要ではないかと考えます。
- 尼僧数が少ない事に関し、過去の尼僧様の出家経緯を歴史的に明確にする必要がある。その上での男女平等活躍を考えなければならないと思慮する。
- 制度改革と改革に対する理解・支持を平行して行うことが必要。意識改革の必要性とそのためのアプローチについては、男性では上位の役職者、女性では若年層に対してなされることが重要である。
- 男女が平等に活躍できる環境作り」という視点に関しては、社会や他宗からの学び(先進的な例)を多く収集することが必要だと思う。他の例としては、諸外国の例も多数参考にした方がいいかもしれないと思います。
- 北海道内で多宗派の僧侶との交流会等では、尼僧さんに多く出会うが、現職等、宗門内ではほぼ会わない。法要の導師としても見たことが無い。まずは出会うことから始まるのではないか。
- 性別による格差を解消していくことは困難な道のりかと思われますが、永く将来を見据えて検討し努力すべきと考えます。
- 宗内女性の参加人数を、増やす努力、方法を考えていかなければならないと思います。
- 議員にしても、役員にしても、女性の活躍の場を増やすことは今後の曹洞宗にとって良い影響でしかないと思う。
- 男女が平等に活躍とあるが、何をもっての活躍かがよくわからない。自坊をもち、檀家さんとの付き合いをすることが活躍だとするなら、もうできていると思う。いい加減な寺の長男が世襲でなる住職よりも自分で頭を丸める覚悟を持ち発心して修行に入った尼僧の方がまともな場合も多い。活躍＝議員や役職ということであれば、前述の通り無理矢理にも枠を作り参加させるしかないのではないでしょうか。

- 女性が活躍する社会は賛成ですが平等を掲げる事によって女性的な考えが無くなるのではないかと懸念しています。
- 男女平等は非常に大切である。そのことは宗門全体はもちろん、一教区や一寺院単位で研鑽されるべき。それと同時に、そのために「僧侶」の有り様を歪めることは本末転倒なことは十分に留意すべきである。
- 無理に女性の僧侶を増やそうとする必要はない
- 環境整備。あとは男女が平等など声を高らかにしてる時点で不平等だと感じる。ただ、身体的なものなどどうしても差がものはお互いあるので、そこはケアをしていく。
- 宗門内よりも、檀家からの男性住職の要望が強いように感じます。
- 宗門内に女性がいなければならない理由はないので、志願者各々がそれなりの高い意識をもって行動すればいいと思う。その潤滑油になるような制度や仕組みを設ける事は賛成ではあるが、無理に変えるほどのことではないと思う
- 女性にそもそも僧侶としてやっていこうという人が多くないので、女性の総数が少ないのではないか。数が増えればもっと改革しやすくなると思うが。
- 数にとらわれるべきではないと思います。
- 維持だけなら寺族の権限を住職と同じように葬儀をできるかたちにする。
- 男女共に同じように法を行ずる意識環境を増やして欲しい
- 私の周りでは、性別問わず、活躍できる場があるし、男性の方も、しっかりとわきまえていて環境は良いから曹洞宗の僧侶として誇りをもって活動できている。しっかりと剃髪をしている為、地域からもお坊さんらしくて良いと言ってもらえる。見た目から布教できることもあると考えるので、剃髪は必要だと思っています。そういう尼僧侶自身の自覚は必要だと思うし、だから周りが認めてくれ、頑張れる場所にもなると思います。男女平等というのは、お互いが認め合うことが前提で、私の周りでは、男女の違いで困ることは今のところございません。
- 社会においても男女で雇用条件や待遇に差があることは差別である為、宗門においても女性というだけで昇進が妨げられたり、修行の選択の妨げはない方がいいと思います。現に、指導的地位には青山老師がいらっ

しゃるように、宗門においても能力を男女差無しで十分発揮できるよう、男性の意識改革とあわせ、環境づくりをしていくべきではないかと思います。

- 女性枠を増やしたり尼僧さんが両本山でも安居できるように女性用スペースなどの施設を作ったりする
- 子どもが３人おります。長男は得度しました。次男も年齢に達すれば得度をしたいと考えておりますが、長女は得度しませんでした。やはり「剃髪」がネックでした。有髪が認められれば、女性活躍の幅も広がると思います。しかしながら「剃髪」を無くすという事は宗門の伝統を否定するようで。また、大きな覚悟をもって「剃髪」されてこられた諸師方の思いも否定するようで賛成できません
- 本来はお坊さんは他の職業よりも、性別の差が出にくいと思います。男女に関わらずしっかりと、実践的に学べる環境が必要だと思います。
- 女性に偏るやり方はどうかと思う。他宗から学ぶのではなく、お釈迦さま在世の頃にはどうされていたのか、そこに戻って考えるべきだと思う。
- まずは男僧側がジェンダーバイアスを改めるべき。
- 宗務庁の民営化が必要
- 宗務庁、ならびに宗務所の職員女性を増やす。
- 男女を論じなければ良いかなと。男女にこだわるから違和感を感じてしまうのかと。能力があればそこに合うようになり、なければそこにはいないという認識でも良いのでは。男だから選んでいるのならば問題だが。しかしながら、男特有の、また女特有の能力や現象はあると思うのであまりにも平等を求めても、人口減少など止めることができない気もします。さらには、今回とは違いますが、曹洞宗にお願いしたいのは、ジェンダー問題を取り上げられますが、ならば早く真宗などのように位階の廃止をお願いしたいです。もしくは男女のこだわりなく一つなどに。見た目の男、中身の認識は女性やそれすらないなど様々であり、ジェンダー問題で考えるならば、その部分の性差をなくせば良いだけのような気がするのですが、難しいのでしょうか。
- 宗門というくくりでも私より能力的にも優れた尼僧さんを知っているので、女性側の意見を聞き入れて男性側の意識の改革がまず必要なような

気がします。具体的にも送行後の有髪の了承などは賛成です。社会性と伝統や神聖性とのバランス、宗門の核がどこにあるのかなど再考察が必要なような気がします。

- 上記設問で有髪について、男性は剃髪必須。女性は免除でもと個人的には思いますが、それは平等ではないという意見がでるのでしょうね。全面的に有髪を許すのは将来的にもよろしくないとは思います。
- 全ての機会で男女半分にする。会議なども役職も。
- 女性の枠を…女性の意見を…といった時点で平等ではないとおもいます。枠を作ってもらう、声に耳を傾けてもらう、では結局変わらないと思います。本山での修行は厳しいものであり、それが送行したものの誇りであり、僧侶人生の屋台骨となっていると思います。本山はいつまでも変わらぬ本山であってほしいと願います。
- 個人的には、超宗派の勉強会(未来の住職塾)で、お寺に関するあらゆることを学べたので、他宗派との情報交換含めた交流が、自派の旧弊を打ち破るよすがとなるのではないかと思います。
- 女性住職や女性宗侶が皆さんに紹介される機会があれば、もっと広がっていくのではないかなと思います。
- 現状の男女比だと、平等は不可能と思います。男女関係なく志のある人が僧侶になるべきであって無理に増やすことも違う。女性の意見にも耳を傾けるべき。しかしながら、ただでさえ少ない女性僧侶の中で役職に就くことを希望する人がどれほどいるのか？も気になります。修行において男女が分かれているのは、差別ではなく区別だと思います。女性の意見も取り入れられるべきだが、SDGs で女性の活躍の場を広げて、世間体を保とうとする、それ自体がジェンダーバイアスなのでは。
- 男女に関わらず個人の意識改革が重要だと思います。
- まず動き出すことが重要であると思う。頭の硬い変化を求めない人たちは管理の立場にいるべきではない。
- 私、男性側の尼僧さんへの知識不足の為どうすれば良いのか分からないのでまずは、尼僧さんの意見を出して頂きそれを叶えて行くのが近道のような気がします
- 男性にしても女性にしてもあまりラディカルな主張に陥らずフラットに検討できる場づくりが必要だと思う。他宗では女性が活躍しており宗門も

何らかの対策をすべき。浄土真宗の男性僧侶のように安居中の浄髪は必須、下山した後は自由選択としたら幅が広がると思う。

- 現職研修会のテーマにあげる。宗報で取り上げ、誌上討論を行う。
- 一般社会以上に男尊女卑が強い上、年功序列といった年下の意見を一切聞く耳をもたなかったり、一方的な否定や言った人物を潰すような行動を許している限り、宗門が衰退していくことはしょうがないことだと思われる。男女といった考えでなく、やる気や能力があるまじめな人が活躍できる場所が必要だと思う。
- 「男女が云々」などと意識せずにかつやくするのが僧侶のあり方でないか？
- 尼僧さんがどういう意見をお持ちであるか不勉強な為、男女平等をどこに定義するのかわからないので良い考えが浮かびません
- わからない
- 女性を増やすために有髪を公式認可するというのは出家の信条を曲げることになるので強く反対します。女性議員枠を設けることは賛成です。曹洞宗僧侶の属性は多様性が失われ、男性世襲僧侶の割合が増えており均一化が進んでいるそうです。多様な人材の活躍を期待します。
- まずは女性の活躍の場を広げるためには制度的改革が第一に必要かと思います。
- 内部の平等化への取組みと同時に、社会が宗門僧侶に求める姿が那辺にあるかのリサーチも必要であろうと思われます
- 何が何が正しいかということを議論するよりも、まずはやってみること、チャレンジすることは大事だと思います。
- 一つの問題を解決するだけで解消される問題ではない。曹洞宗の体制を根本から解決する必要があり、曹洞宗での「女性が活躍できる」という問題においてどの立場の女性なのか（尼僧・宗務庁職員・寺族など）が不明瞭であるから、網羅的に曹洞宗に関わる女性全てが活躍できることを目指すのであれば、出家と在家の問題も付随すると思われる。いずれにしても問題意識を持って取り組むことは大切である。
- 宗務庁のバランスを取るのも大事だが、一寺院内で考えれば住職は男性か女性かの一択になる。その上で「男女が平等」ということを考えて行くには在家の方々との関わりを考えていかなくてはならないだろう。総

代・理事の男女比を合わせるなどの個別の取り組みが必要になってくると考える。

- 曹洞宗機関や寺院住職の流動性の確保。定年制。僧堂教育。
- 社会的価値観の変化
- 真宗や海外の例を参考にしつつ進めていくことが効果的ではないか。
- お話をたくさんしましょう
- 今回、SDGｓの動きを受けて、宗門内がジェンダーに関して発言する機会を設けてくださったことがとても有難いことと感じる。本当の平等を実現するために、宗門がもっともっと先取りでアクションを起こしていただきたいと感じる。宗門は、道元禅師の「男女を論ずることなかれ」のお言葉をさらに社会に発信し、イニシアティブをとれる位置にあるのだから、なぜそれをしないかが私には疑問に思える。まずはジェンダーに関する対話から始め、ジェンダー固定をはずし、さらなる平等に向けてアクションをおこす。私も是非協力させていただきたいと思う。未来の尼僧さんのために。
- まずは、地元教区寺院、宗務所内寺院の意識改革から。推進委員を設けてもいいかと思う。
- 道元禅師の教えは、鎌倉時代につくられたものであり、昨今の法事の在り方や僧侶の減少などを加味して剃髪の自由化や女性の進出といったことは今後職業として曹洞宗の寺院が残るためには必要なことであると思う。
-
- 一般社会と比較し、男女格差や不平等感が大きいと感じる。そもそも、女性僧侶を受け入れる土壌ができてない雰囲気があるのが残念
- 世界に目を向けて取り組んでいきたい
- 全ての仏教者の立場が性別で崩されないようにしたい
- 各宗務所での勉強会を企画する。
- 尼僧と表現するのであれば、男僧と表現するべきではないでしょうか。
- 特になし
- 家父長制に含まれる形でバイアスがあるように見受けます。
  女性の登用はもちろん、年少の登用も必要かと考えます。
  世襲制の回避も考えた方がよいのでは。（家父長制に直結すると考えます

ので）
曹洞宗の看板として永平寺などよく用いられていると察しますが、尼僧堂や共同安居している道場を表に見せていくことも良いのではと考えます。（瀬戸内寂聴師はメディア露出が多く、違和感を持つ方も少なかったように感じます。）

- 僧侶は男性という社会的固定観念をなくす研修や講演、SNS の発信をする。また女性のみ有髪を認可し僧侶となる窓口を広げる。
- 男女不平等は改善された方が良いが、何をもって平等とするのかもっと話しあったほうが良い
- 必要なのは世代交代。だと思う
- この問題に関しての関心、また差別的な現状は、地域差があると思います。全国の現状を掘り起こし、宗門全体で定義していくことが必要かと考えます。
- 女性の発菩提心の高揚
- そもそも、平等の定義がわからない。
  身体のつくりが違うのだから、すべてを等しくするのは不可能。その行持または配役・役職から除外した方が賢明な場合も出てくるはず。
  差別ではなく、〝正しく区別する〟意識づけをする。
  そのためには、釈尊のサンガ（比丘・比丘尼の関係）を学んだり、男女の話し合いの場を設けるとも必要。
- 尼僧への門戸は非常に間口がせまく、男僧以上に容易ではないと知人の尼僧さんから伺っています。尼僧さんは発心してなられた方が多く、求道心も高い方々が多いのですが、役職につくとなると別な壁があるように感じます。本山もひと昔前と違い安居者が減り、ゆとりがあるので今なら共同安居も実行しやすいかも知れませんね。そもそもの志願者が増えなければですが。
- 対話によって男女相互の本心を共有する場を定期的に設けることは必須のように感じます。そこで共有された事実をしっかりと可視化し、ひとつひとつ丁寧に消化していく。また、その過程を広く宗門内で共有することも重要と考えます。いずれにしても人と人との関わり合いの中で生じる問題ですので、必ずしも合理的な判断が正しいとは限らず、各々の心情も大きく反映されるべきであると思います。そうした背景を鑑みま

すと、具体的な答えにはなっておりませんが、「共有された事実をしっかりと可視化し、ひとつひとつ丁寧に消化していく」というプロセスが大事なように思います。仮に具体的な問題提起としてひとつあげるのであれば、現場の女性教師へのサポートは必須のように思います。例えば、妊娠・出産といった女性特有の営みの中で、どうしても檀務が出来ない期間が生じます。その間の檀務補助や金銭補助といった救済制度がなければ、女性が住職として教化活動を勤めていくことは現実的に難しいと思います。女性教師の数がある程度いらっしゃれば、教区単位での救済制度構築も可能かもしれませんが、現状の男女比であれば、まずは宗務庁・宗務所といった大きな行政区分において救済制度を確立し、女性が安心して僧侶の道を選択できる環境づくりを率先していく。その過程が徐々に地方へと深化されていくことによって、男女相互の心情理解を含めた最良の環境が作られていくように思います。

- 釈尊以来、比丘サンガと比丘尼サンガが分けられてきたことを無視できないと思います。修行など僧侶としてのあり方の本質に関わる部分では安易に男女の別を曖昧にできないと思います。一方で、宗門教師・寺院住職としての立場や教区長、宗務所役職員、宗会議員、宗務庁役職員など、宗門のいわば「組織、まとまりの運営、発展」に関わる部分でそれぞれ役割を果たす場面では男女の別は排されるべきだと思います。
- 男性が思う以上に女性への制限があるのではないかと思う。もっと女性の意見を聴くべきだし、女性が意見をしやすい様にするべき。
- 尼僧さんからの意見や要望を取り入れる。男女とも様々な意識改革が必要であると思います。
- 女性教師や女性職員の声に耳を傾ける姿勢
- 環境作りはするべきで、さらに宗侶の意識も変えて行かなければ意味がないと思います。
- 女性が役職に就いて考えを反映させる場をもっと作っていくべき。女性が活躍しやすい制度を導入すべき。
- お互いに尊重しあえる環境が作れたらと思います。そのためには、尼僧である私ももっと勉強、経験を日々の中で継続しなければと、自らを律します。
- 尼僧さんが発言できる場が極端に少ないように感じるので、男女間の話

し合いの場を設けるところから始めるのが良いと思います

- やはり青年会の時から共に活動していくことが大切だと感じます。共に活動することで共に敬いあえる関係性になれる。そもそも同じ曹洞宗僧侶なのに日常的に接することも少ないのて余計に同じ宗門僧侶という意識がうまれてこないのでは
- そもそも、曹洞宗は男女というより若い人材の意見が抽出されにくい環境にあると思う。
  時代に寄り添った活動を展開していくのであれば、若手の意見や考え方は必要不可欠であると思う。
- 正直なんと答えたらよいかわかりません。
  男性同士、女性同士でも平等は難しいと思うので。
- 我が宗は前向きに動き出していると思います
- 男女双方の尊重、意識改革が必要
- 自己の究明を強く深くする。両祖の教示を偏見なく学ぶ事。宗侶であることの自覚。等、環境づくりも大事ですが釈尊の思想は SDGs を取り上げるまでまなく、平等を願うものであり、持続可能な社会すなわち平和を希求するものであります。
- もっと尼僧さんの人数が増えてくるといいと思います
- あくまで私個人が感じていることですが、お釈迦様の時代から、男性僧侶が圧倒的大多数であることを踏まえても、今からいきなり女性僧侶を増やそうとしたり、「男女が平等」である環境を作るというのは、なかなか難しいのではないかと思います。
  より良い宗門のためには、女性の活躍も大事ですが、逆に「男女を論ずる」ことなく、全体として良い僧侶を育成し続けることが大事なのではないかと思っています。

【謝辞】

　このたび、本アンケートにご協力下さった各位におかれましては、公私にわたりご多端であるにもかかわらず、ご丁寧なご回答をいただき、心より深謝申し上げます。本アンケートの結果につきましては、適切に整理いたし、報告書としてまとめ、曹洞宗宗務庁内局に提出させていただきます。このたびのような活動は、さらなる発展を企図して継続してゆく所存でございます。今後ともご助力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。